



テーブルデータ操作サンプル

このサンプルでは、テーブルデータの基本操作、基本操作を組み合わせた複合操作、帳票の印刷までの基 本事項について説明しています。

◆目次

第1章 はじめに	1
第2章 テーブルデータ基本操作	2
2.1 列の追加	3
2.2 列の削除	7
2.3 行の追加	
2.4 行の削除	
2.5 セルデータの取得	
2.6 セルデータの設定	
2.7 列データの取得	
2.8 列データの設定	
2.9 行データの取得	
2.10 行データの設定	
2.11 列の移動	
2.12 行の移動	38
2.13 部分テーブルの取得	
2.14 並べ替え(ソート、一列)	
2.15 並べ替え(ソート、複数列)	
2.16 分類テーブルの作成	
2.17 セル値を用いた計算	60
2.18 列単位の集計	66
2.19 行単位の集計	
第3章 テーブルデータ複合操作	
3.1 集計表 1	
3.2 集計表 2	
3.3 クロス集計(ピボットテーブル生成)	
第4章 帳票印刷	
4.1 テーブルデータの印刷	
4.2 テーブル内のバーコード・QRコード印刷	101
4.3 繰り返し印刷1(流し込み印刷):テーブル編	
4.4 繰り返し印刷 2(流し込み印刷): ラベル・バーコード・QRコード編	107

第1章 はじめに

本書では MZ Platform におけるテーブルデータの基本操作、基本操作を組み合わせた複合操作、帳票の印 刷までの基本事項について説明しています。本書で説明するすべての処理手順例はサンプルアプリケーショ ン "AP_DATA¥Sample¥テーブルデータ操作.mzax"に収められています。アプリケーションビルダーでロ ードし実行することにより、各処理手順例の動作の確認、処理手順の確認を行うことができます。このサン プルアプリケーションを実行すると次のような3つのフレームが表示されます。



左上のフレームには、元になるテーブルデータと各設定例で用いるデータを表示しています。右上のフレ ームには処理結果のテーブルデータと各例で得られるデータを表示します。下のフレームには各処理手順例 を実行するための操作パネルが配置されています。

本書で説明する処理手順では、「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントのメソッド実行処理 においてテーブルデータの処理を定義するとともに、初期データが設定された左上画面の「テーブル」コン ポーネントのテーブルデータと必要情報とを引数として「ファンクション」コンポーネントのメソッドを実 行し、戻り値として「ファンクション」から取得した処理結果を右上画面の「テーブル」コンポーネント等 に設定することを基本とします。

第2章 テーブルデータ基本操作

本章では MZ Platform におけるテーブルデータの基本的な処理手順について説明します。 本章でテーブルデータの処理のために使用する主なコンポーネントは次のとおりです。

コンポーネント名	場所	説明
■テーブル格納変数	<i>[コンポーネント追加]</i> -[処理部品] -[変数]-[テーブル格納変数]	テーブルデータを格納し、様々な操作 を行うコンポーネント。
■テーブルサブセット フィルタ	<i>[コンポーネント追加]</i> -[処理部品] -[制御フィルタ]-[テーブルサブ セットフィルタ]	テーブルデータから部分テーブルデ ータを抽出するコンポーネント。
■グラフデータ作成(複 合コンポーネント)	<i>[複合コンポーネント追加]</i> -[グラフ] -[グラフ化モジュール.mzcx]	テーブルデータから様々なグラフ用 のテーブルデータを生成するための コンポーネント。本章では分類テーブ ルを生成するために使用します。
■ファンクション	<i>[コンポーネント追加]</i> -[処理部品] -[サブルーチン]-[ファンクショ ン]	与えられた引数に対し、処理結果を返 すコンポーネント。処理をまとめるた めに使用します。本章では、元になる テーブルデータと処理に必要な情報 とをファンクションのメソッドに引 数として与え、処理結果を戻り値とし て取得することを基本とします。
■ユーティリティ起動	<i>[コンポーネント追加]</i> —[処理部品] -[ユーティリティ]-[ユーティリ ティ起動]	幾つかの便利な機能を持つコンポー ネント。本章ではクラス名からクラス を取得するために使用しています
■文字列格納変数	<i>[コンポーネント追加]</i> —[処理部品] -[変数]-[文字列格納変数]	文字列を格納し、様々な操作を行うコ ンポーネント。本章では、計算式を設 定しセル値を代入するために使用し ます。
■関数電卓	<i>[コンポーネント追加]</i> [処理部品] [演算制御] [関数電卓]	演算を行うコンポーネント。本章で は、セル値に対する計算に使用しま す。
■基本統計処理(数値)	<i>[コンポーネント追加]</i> - [処理部品] - [統計] [基本統計処理(数値)]	数値のリストデータに対して、合計 値、平均値等を計算するコンポーネン ト。本章では、テーブルデータの列ま たは行に対して、集計値を計算するた めに使用します。
■繰り返し制御(FOR)	<i>[コンポーネント追加]</i> [処理部品] [条件制御][繰り返し制御(FOR)]	繰り返し処理を行うコンポーネント。 本章では、行または列について繰り返 し処理を行う際に使用します。
■オブジェクト分岐		オブジェクトにより条件分岐を行う コンポーネント。本章では、テーブル 列のデータ型による処理の分岐等に 使用します。

<u>2.1 列の追加</u>



以下の図のように、テーブルデータに列を追加するための処理手順について説明します。

🍝 元デ	- 夕・設定デ-	タ				실 操作	結果・取得ラ					
品名	型番	単価	個数 出荷先	設定用データ		品名	型番	単価	個對	金額	出市先	取得したデータ
部品1	PRD101	100	2 A社			部品1	PRD101	100		2	Ażt	
部品2	PRD102	120	2 A社	PRD999		部品2	PRD102	120		2	ARL	
部品3	PRD103	140	4 A社	=~	in-the matrix	部品3	PRD103	140		4	AA	En/AL +-
部品4	PRD104	160	4 A社	設定用	設定用 ゴーカ(行用)	部品4	PRD104	160		4	A社	収1守した
部品5	PRD105	180	2 A社) - 5 (90H)	5-3(IJH)	部品5	PRD105	180		2	AAL	
部品1	PRD101	100	1 日社	200 🔺	部品10	部品1	PRD101	100		1	8社	
部品2	PRD102	120	5 日社	220	PRD999	部品2	PRD102	120		5	8社	
部品3	PRD103	140	5 B社	240	150	部品3	PRD103	140		5	8社	
部品4	PRD104	160	4 B社	260	3	16日4	PRD104	160		4	8社	
部品5	PRD105	180	3 日社	200	5	\$5	PRD105	180		3	8社	
部品1	PRD101	100	2 C7±	280 =		一 ^{危1}	PRD101	100		2	C社	
部品2	PRD102	120	2 C?±	200		都品2	PRD102	120		2	C社	
部品3	PRD103	140	2 C?±	220		部品3	PRD103	140		2	C社	
部品4	PRD104	160	5 C社	240		部品4	PRD104	160		5	C社	
部品5	PRD105	180	5 C?±	260		部品5	PRD105	180		5	C社	
部品1	PRD101	100	2 D?±	280		部品1	PRD101	100		2	D社	
部品2	PRD102	120	2 D?±	200		部品2	PRD102	120		2	D社	
部品3	PRD103	140	1 D社	220		部品3	PRD103	140		1	D社	
部品4	PRD104	160	1 D社	240		部品4	PRD104	160		1	D社	
部品5	PRD105	180	2 D?±	240 -		部品5	PRD105	180		2	D?±	
									(
실 操作	パネル											
基本操	作 複合操作	帳票印刷	时									
17	デーク取得・副	<u>م</u>	利 抱 計 (一彩		ブル取得 いい	- 1 4	類テーブルイ	午成	扫山値	計管	列甾位集計	行単位集計
列												
列削除 列位置 2 🔶												
	207											

使用メソッド

テーブルデータに列を追加するために使用するコンポーネント、基本メソッドおよび設定する引数は次のとおりです。

コンポーネント	■テーブル格納変数				
メソッド	指定位置に列を追加する(列名・型指定)(int, String,				
	Class)				
引数	第1引数:追加位置				
	第 2 引数:列名				
	第3引数:型				
戻り値	なし				
列の位置、列の名前、データ型を	指定して、列を追加します。データ型は、文字列の場合				
「java.lang.String」、整数の場合「java.math.BigInteger」、実数の場合「java.math.BigDecimal」					
日付の場合「java.util.Date」、論理	値の場合「java.lang.Boolean」を設定します。				

類似する処理行うメソッドとして次のメソッドがあります。

メソッド	指定位置に列を追加する(int)			
引数	第1引数:追加位置			
戻り値	なし			
基本メソッドの第1引数以外を省略したメソッドです。列名は空文字、データ型は文字列型に設				
定されます。				

メソッド	指定位置に列を追加する(列名・型・データリスト指定)(int,			
	String, Class, PFObjectList)			
引数	第1引数:追加位置			
	第2引数:列名			
	第3引数:型			
	第4引数:データリスト			
戻り値	なし			
基本メソッドに列データを追加したメソッドです。				

メンッド	最終尾に列を追加する(列名・型指定)(String, Class)				
引数	第1引数:列名				
	第2引数:型				
戻り値	なし				
列の名前、データ型を指定して、最終列に列を追加します。					

メソッド	最終尾に列を追加する()			
引数	なし			
戻り値	なし			
最終列に列名が空欄で文字列型の列を追加します。				

メソッド	最終尾に列を追加する(列名・型・データリスト指			
	定)(String, Class, PFObjectList)			
引数	第1引数:列名			
	第2引数:型			
	第3引数:データリスト			
戻り値	なし			
列の名前、データ型、列データを指定して、最終列に列を追加します。				

接続例

動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された左側テーブルデータの列位置に、「テキストフ ィールド」に指定された列名及びデータ型で列を追加し、その結果を右側の「テーブル」に設定する処理手 順を以下のように定義します。ここで列追加の処理は「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベン トに定義しています。第1引数に元テーブルデータ、第2引数に追加列位置、第3引数に列名、第4引数に データ型名を指定してメソッド「ファンクションの呼び出し(4引数)」を実行すると、結果のテーブルデー タが戻り値として得られるように定義しています。

ファンクション	処理要求イベント	- テーブルを設定する	ጠ	🥣 テーブル格納変数
ID:11 KEY:"列追加"				ID : 12 KEY : "データ操作用"
		クラス名からのクラス取得	2	ユーティリティ起動
				ID:13 KEY:"クラス名->クラス"
		指定位置に列を追加するの名・型指定) <mark>3</mark>	 ラーブル格納変数 ID:12
				ID:12 KEY:"データ操作用"
		テーブルを取得する	4	□ テーブル格納変数 ID:12
				KEY:"データ操作用"
 ラーブル格納変数 ID:12 VFY・"データ操作用" 				
コーティリティ起動				
ID:13 KEY:"クラス名->クラス"				
<u>■ ボタン</u> ID:14	アクションイベント	■■■2012000■■■ 第13 数:元テーブルデータ,第23 数:追加:	列位置,第3	引数:列名,第4引数:データ型名
(KEY:"列追加"		戻り値:テーブルデータ		
	E	ファンクションの呼び出し(4引数) 	(5)	<u> ファンクション</u> D:11
				KEY:"列追加"
		テーブルデータを設定する	6	テーフル D:8
				KEY:"操作後データ"
■ <u></u>				
■ テキストフィールド ID:16				
KEY:"列名"				
<u> テキストフィールド</u> D:17 KEY:"データ型名"				

M ₂ ;	起動メソッド情報				
		メソッド テーブルを設定す	る(PFObjectTable)		🗖 全メソッド対象
NO	型	説明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:11] (KEY:"列追加")	第1引数の取得
					了解 取消し

②の接続情報:クラス名の文字列からクラス(データ型)に変換する。

₩」	己動メソッド情報				x
		メソッド	クラス名からのクラス取得(Stri	ing) 🔹 🔽 全メソッド対象	
NO	型	i说8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	String	クラス名	メソッド戻り値	ファンクション [ID:11] (KEY:"列追加")	第4引数の取得
				· ·	
					了解 取消し

③の接続情報:追加する列位置(列インデックス)、列名、データ型を指定して列を追加する。

₩2;	起動メソッド情報				X
	>	パソッド 指定位置に列を追加する(列)	名・型指定)(int,String	,Class) 🔹 🔽 全メソッ	产対象
NO	型	説明	取得方法	コンボーネント	メソッド/値
	0 int	追加位置	メソッド戻り値	ファンクション [ID:11] (KEY:"列追加")	第2引数の取得
	1 String	列名	メソッド戻り値	ファンクション [ID:11] (KEY:"列追加")	第3引数の取得
	2 Class	型	メソッド処理結果	-	クラス名からのクラス取得 (ユーテ
					了解 取消し

④の接続情報:ファンクションの戻り値としてテーブルデータを返す。

۳z	起動メソッド情報				X
		メソッド テーブル	を取得する()		🚽 🔲 全メソッド対象
N	D 型	ii兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
					了解 取消し

⑤の接続情報:定義した列追加処理を実行する。

₩_	記動メソッド情報				X
	メソッド	ファンクションの呼び出し(4引数) (Object,Object,Obje	ct,Object) 🔹 🗖 全	:メソッド対象
NO	型	i兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する
	1 Object	第2引数	メソッド戻り値	数値入力力ウンタ [ID:15] (KEY:"列位置")	数値を取得する
	2 Object	第3引数	メソッド戻り値	テキストフィールド [ID:16] (KEY:"列名")	テキストを取得する
	3 Object	第4引数	メソッド戻り値	テキストフィールド [ID:17] (KEY:"データ型名")	テキストを取得する
					了解 取消し

⑥の接続情報:結果をテーブルに設定する。

₩2 #	起動メソッド情報				X
		メソッド テーブル	データを設定する(PFObjectTab	le) 🔹] 全メソッド対象
NO	型	ii 兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 PFObjectTable	テーブルデータ	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(4引…
					了解 取消し

<u>2.2</u>列の削除



以下の図のように、テーブルデータの列を削除するための処理手順について説明します。

▲ 元データ・設定マータ				실 操作籍	詰果・取得ラ						
品名	型番	単価	()	設定用データ		品名	型番	個数	出荷先		取得したデータ
部品1	PRD101	100	2 A7±			部品1	PRD101	2	Ażt		
部品2	PRD102	120	2 A社	PRD999		部品2	PRD102	2	Ażt		
部品3	PRD103	140	4 A社			部品3	PRD103	4	Ażt		TTVBI +
部品4	PRD104	160	4 A社	設定用 設定用		部品4	PRD104	4	Ażt		取けすした
部品5	PRD105	180	2 A社	J-S(MH) J-S(MH)		部品5	PRD105	2	Ażt		
部品1	PRD101	100	1 日社	200 🔺 部品10		部品1	PRD101	1	B社		
部品2	PRD102	120	5 日社	220 PRD999		部品2	PRD102	5	B社		
部品3	PRD103	140	5 B社	240 150		部品3	PRD103	5	日社		
部品4	PRD104	160	4 日社	260 3		₩ 品4	PRD104	4	B社		
部品5	PRD105	180	3 日社	200 5		5	PRD105	3	B社		
部品1	PRD101	100	2 C?±			⊓ / <u>≜1</u>	PRD101	2	C社		
部品2	PRD102	120	2 C?±	200		都品2	PRD102	2	C社		
部品3	PRD103	140	2 C社	220		部品3	PRD103	2	C社		
部品4	PRD104	160	5 C社	240		部品4	PRD104	5	C社		
部品5	PRD105	180	5 C社	260		部品5	PRD105	5	Cネ±		
部品1	PRD101	100	2 D?±	280		部品1	PRD101	2	D社		
部品2	PRD102	120	2 D社	200		部品2	PRD102	2	D社		
部品3	PRD103	140	1 D社	220		部品3	PRD103	1	D社		
部品4	PRD104	160	1 D社	240		部品4	PRD104	1	D社		
部品5	PRD105	180	2 D?±	240 +		部品5	PRD105	2	D社		
)								
 は品がた 	1831				-	-					
≦ 19€1 F.	7.470										
基本操作	作 複合操	作 帳票印刷	5 1								
17	データ取得	・設定	列移動 行利	多動 部分テーブル取得 、	<u>y</u> -	ト 分	類テーブルイ	乍成	セル値計算	列単位集計	行単位集計
	列追加	・削除	(元)	追加・削除	セノ	ルデータ取得	身・設定			列データ取得・誘	定
列	追加 豕	间位置 4	• 列名 金額	データ型名 java.math.BigInteg	er						
列	列前期余 列伯雷 2 ÷										
-											
					יוול	7					
	207										

使用メソッド

テーブルデータの列を削除するために使用するコンポーネント、基本メソッドおよび設定する引数は次のとおりです。

コンポーネント	■テーブル格納変数		
メソッド	列を位置指定で削除する(int)		
引数	第1引数:指定位置		
戻り値	なし		
列の位置を指定して、列を削除しま	きす。		

接続例

動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された位置の列を左側テーブルデータから削除し、その結果を右側の「テーブル」に設定する処理手順を以下のように定義します。ここで列削除の処理は「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に元テーブルデータ、第2引数に削除列位置を指定してメソッド「ファンクションの呼び出し(2数)」を実行すると、結果のテーブルデータが戻り値として得られるように定義しています。

□ファンクション	処理要求イベント	- テーブルを設定する	1	 テーブル格納変数
ID:22 KEY:"列削除"	L	2		ID:23 KEY:"データ操作用"
		列を位置指定で削除する	2	テーブル格納変数
				ID:23 KEY:"データ操作用"
		テーブルを取得する	3	 デーブル格納変数
				ID:23 KEY:"データ操作用"
 ラーブル格納変数 ID:23 KEY:"データ操作用" 				
■■■実行例■■■				
ID: 24 KEY: "列削J除"	アクションイベント	■■■列削除■■■ 第13 数:元テーブルデータ,第23 数:削 戻り値:テーブルデータ	涂列位置	
	e e e e e e e e e e e e e e e e e e e		• 4	ファンクション
		2		ID:22 KEY:"列削除"
		テーブルデータを設定する	5	<u> </u>
				ID:8 KEY:"操作後データ"
■数値入力カウンタ ID:25				

₩_ #	記動メソッド情報				×
		メソッド テーブルを設定す	중(PFObjectTable)	•	全メソッド対象
NO	型	i兑 ⁰ 月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
(PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:22] (KEY:"列削除")	第1引数の取得
					· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
					了解 取消し

②の接続情報:削除する列位置(列インデックス)を指定して列を削除する。

₩₂	起動メソッド情報				x
		メソッド 列を位置指定す	で削除する(int)	▼	全メソッド対象
NO	型	記印	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
(0 int	指定位置	メソッド戻り値	ファンクション [ID:22] (KEY:"列削除")	第2引数の取得
				·	
					了解 取消し

③の接続情報:ファンクションの戻り値としてテーブルデータを返す。

型起	己動メソッド情報			x
	メソッド [テーブルを取得する()		▼ ■ 全メソッド対象
NO	型 説明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
				了解 取消し

④の接続情報:定義した列削除処理を実行する。

۳z	起動メソッド情報						X
		メソッド	ファンクションの呼び出し(2引数)	Object,Object)		▼ 2	ミメソッド対象
N	D 型		記明	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
	0 Object		第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")		テーブルデータを取得する
	1 Object		第2引数	メソッド戻り値	数値入力力ウンタ [ID:25] (KEY:"列位置")		数値を取得する
							了解 取消し

⑤の接続情報:結果をテーブルに設定する。

₩2,	起動メソッド情報				×
		メソッド テーブ	ルデータを設定する(PFObjectTab	le)	▼ □ 全メソッド対象
NO	型		取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 PFObjectTable	テーブルデータ	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(2引…
					「ア解」「取消し」

<u>2.3</u>行の追加



以下の図のように、テーブルデータに行を追加するための処理手順について説明します。

▲ 元データ・設定データ □ ■ × ●				▲ 操作結果・取得データ											
品名	型番	単価	個数	出荷先		設定用データ			品名	型番	単価	個数	出荷先		取得したデータ
部品1	PRD101	100	2	AAL					部品1	PRD101	100	2	Ażt		
部品2	PRD102	120	2	AAL	1	PRD999		11	部品2	PRD102	120	2	A社		
部品3	PRD103	140	4	A社		ふ今日	設会用								町/母」 t-
部品4	PRD104	160	4	A社		或定用 データ(別用)	設定用	III	部品3	PRD103	140	4	A社		- 4019-072
部品5	PRD105	180	2	AAT] [·	(התיט כי כ	(m) - 2 (m)		aPoo 4	PRD104	160	4	AFI		
部品1	PRD101	100	1	B社		200 🔺	部品10		部品5	PRD105	180	2	Aż‡		
部品2	PRD102	120	5	B社		220	PRD999		部品1	PRD101	100	1	B社		
部品3	PRD103	140	5	8社		240	150		部品2	PRD102	120	5	B社		
部品4	PRD104	160	4	B社		260	3		1683	PRD103	140	5	B社		
部品5	PRD105	180	3	时之		200	_ ⊏>∔		54	PRD104	160	4	B社		
部品1	PRD101	100	2	C社		200 =				PRD105	180	3	B社		
部品2	PRD102	120	2	C社		200			都品1	PRD101	100	2	C社		
部品3	PRD103	140	2	C社		220			部品2	PRD102	120	2	C社		
部品4	PRD104	160	5	C社		240			部品3	PRD103	140	2	C社		
部品5	PRD105	180	5	C社		260			部品4	PRD104	160	5	C社		
部品1	PRD101	100	2	D社		280			部品5	PRD105	180	5	C社		
部品2	PRD102	120	2	D社		200			部品1	PRD101	100	2	D社		
部品3	PRD103	140	1	D社		220			部品2	PRD102	120	2	D社		
部品4	PRD104	160	1	D社		240			部品3	PRD103	140	1	D社	_	
部品5	PRD105	180	2	D社		240 -			部品4	PRD104	160	1	D科	-	
									部882	PRD105	180	2	D科		
_															
실 操作	パネル														
基本操作	~ 複合操作	帳票印刷	ij												
行于	データ取得・誘	定	列移	カー 行乗	鋤	部分テー	ブル取得 、) —	ト 分	類テーブル伯	乍成	セル値計	質 ?	列単位集計	行単位集計
	列追加・削	除		íti	自加・削	『除		セル	レデータ取得	界・設定			列ラ	データ取得・影	定
/==	eta (=/-)	≖	-												
			•												
×=2	11 P A (= /+5	-	•												
			•												
	207														

使用メソッド

テーブルデータに行を追加するために使用するコンポーネント、基本メソッドおよび設定する引数は次のとおりです。

コンポーネント	■テーブル格納変数
メソッド	指定位置に行を追加する(int)
引数	第1引数:追加位置
戻り値	なし
行の位置を指定して、行を追加しま	

類似する処理行うメソッドとして次のメソッドがあります。

メソッド	指定位置に行を追加する(データリスト指定)(int,				
	PFObjectList)				
引数	第1引数:追加位置				
	第2引数:データリスト				
戻り値	なし				
行の位置、行データを指定して、行を追加します					

メソッド	最後尾に行を追加する
引数	なし
戻り値	なし
最終行に行を追加します。	

メソッド	最後尾に行を追加する(データリスト指定)(PFObjectList)
引数	第1引数:データリスト
戻り値	なし
行データを指定して最終行に行を追	加します。

メソッド	最後尾に行を追加する(テーブル指定)(PFObjectTable)					
引数	第1引数:テーブルデータ					
戻り値	なし					
テーブルデータを指定して最終行以降に行を追加します。						

接続例

動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された左側テーブルデータの行位置に行を追加し、その結果を右側の「テーブル」に設定する処理手順を以下のように定義します。ここで行追加の処理は「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に元テーブルデータ、第2引数に追加行位置を指定してメソッド「ファンクションの呼び出し(2引数)」を実行すると、結果のテーブルデータが戻り値として得られるように定義しています。



₩2;	起動メソッド情報				×
		メソッド テーブルを設定す	중(PFObjectTable)		□ 全メソッド対象
NO	型	i.兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:27] (KEY:"行追加")	第13 数の取得
					了解 取消し

②の接続情報:追加する行位置(行インデックス)を指定して行を追加する。

≝₫	己動メソッド情報					×
	k	▼ ■ 全メソッド対象				
NO	型	説明	取得方法	コンポーネント	メンシ	,ド/値
0	Dint	追加位置	メソッド戻り値	ファンクション [ID:27] (KEY:"行追加")	第2引	数の取得
			·		· · · · ·	
						了解 取消し

③の接続情報:ファンクションの戻り値としてテーブルデータを返す。

赴	記動メソッド情報				×
	メソッド	テーブルを取得する()		▼ 2メソッド	対象
NO	型 説明	取得方法	: コンポーネント		メソッド/値
					了解 取消し

④の接続情報:定義した行追加処理を実行する。

型起	記動メソッド情報				X
	メソッド	ファンクションの呼び出し(2引数) (Object,Object)		▼ 🔲 全メソッド対象
NO	型	記印	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する
1	Object	bject 第2引数 メソッド戻り値 数値入力力ウンタ [ID:30] (K		数値入力力ウンタ [ID:30] (KEY:"行位置")	数値を取得する
		·			
					了解 取消し

⑤の接続情報:結果をテーブルに設定する。

₩2 #	己動メソッド情報				×
		メソッド <mark>テーブルデータを</mark> 言	设定する(PFObjectTab	le)	
NO	型	記名目	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
(PFObjectTable	テーブルデータ	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(2引…
					了解 取消し

<u>2.4 行の削除</u>



以下の図のように、テーブルデータの行を削除するための処理手順について説明します。

🔊 元データ・設定データ		실 操作結	果・取得デ	-9				
品名 型番 単価 個数 出荷先	設定用データ	品名	型番	単価	個数	出荷先		取得したデータ
部品1 PRD101 100 2 사土		部品1	PRD101	100	2	AAL		
部品2 PRD102 120 2 A社	PRD999	部品3	PRD103	140	4	A¥1		
EPE3 PRD 103 140 4 AF1		部品4	PRD104	160	4	A¥±		町/島」 tu
部品4 PRD104 160 4 A社	設定用 設定用 データ(別用) データ(行用)	部品5	PRD105	180	2	A¥±		取けつた ジーク
部品5 PRD105 180 2 A社		部品1	PRD101	100	1	B社		VXF) -3
部品1 PRD101 100 1 B社	200 🔺 部品10	部品2	PRD102	120	5	毗		
部品2 PRD102 120 5 B社	220 PRD999	部品3	PRD103	140	5	毗		
部品3 PRD103 140 5 B社	240 150	部品4	PRD104	160	4	B社		
部品4 PRD104 160 4 B社	260 3	19685	PRD105	180	3	B社		
部品5 PRD105 180 3 B社	290 5+	% 1	PRD101	100	2	C社		
部品1 PRD101 100 2 C社	200 = LTL		PRD102	120	2	C¥1		
部品2 PRD102 120 2 C社	200	都品3	PRD103	140	2	Cźź		
部品3 PRD103 140 2 C社	220	部品4	PRD104	160	5	C社		
部品4 PRD104 160 5 C社	240	部品5	PRD105	180	5	CRT		
部品5 PRD105 180 5 C社	260	部品1	PRD101	100	2	DR±		
部品1 PRD101 100 2 D社	280	部品2	PRD102	120	2	Dří		
部品2 PRD102 120 2 D社	200	部出3	PRD103	140	1	D社		
部品3 PRD103 140 1 D社	220	部品4	PRD104	160	1			
部品4 PRD104 160 1 D行	240	89665	PRD105	180	2	DAT		
2041 PRD105 180 2041								
		×						- 0 X
基本操作 複合操作 帳票印刷								
行データ取得・設定 列移動 行移	動 部分テーブル取得 ソー	・ト 分類	夏テーブル作	版	セル値計:	覧 列i	単位集計	行単位集計
列追加・削除 行通	助・削除 セ	ルデータ取得	・設定			列デ-	- タ取得・設	定
					1			
行追加 行位置 2 🜩								
「行削除」行位置 1 🚽								
		7						

使用メソッド

テーブルデータの行を削除するために使用するコンポーネント、基本メソッドおよび設定する引数は次のとおりです。

コンポーネント	■テーブル格納変数
メソッド	行を位置指定で削除する(int)
引数	第1引数:指定位置
戻り値	なし
行の位置を指定して、行を追加しま	きす。

接続例

動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された位置の行を左側のテーブルデータから削除し、 その結果を右側の「テーブル」に設定する処理手順を以下のように定義します。ここで行削除の処理は「フ ンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に元テーブルデータ、第2引 数に削除行位置を指定してメソッド「ファンクションの呼び出し(2引数)」を実行すると、結果のテーブル データが戻り値として得られるように定義しています。

ファンクション	処理要求イベント	- テーブルを設定する	(1)	- テーブル格納変数
ID:33 KEY:"行削除"		Ť		ID : 34 KEY : "データ操作用"
		行を位置指定で削除する	2	 テーブル格納変数
				ID:34 KEY:"データ操作用"
		テーブルを取得する	3	 テーブル格納変数
				ID:34 KEY:"データ操作用"
 ■ テーブル格納変数 ■ D:34 KEY:"データ操作用" 				
ボタン D:35 KEY:"行削除"	アクションイベント	■■■行削除■■■ 第13 数:元テーブルデータ,第23 数:削將 戻り値:テーブルデータ	徐行位置	
	F		4	ファンクション
	E	ſ		ID:33 KEY:"行削除"
		テーブルデータを設定する	(5)	<u> 「 テーブル</u>
				ID:8 KEY:"操作後データ"
■数値入力力ウンタ ID:36 KEY:"行位置"				

₩」	国動メソッド情報				X
		メソッド テーブルを設定す	중(PFObjectTable)	•	全メソッド対象
NO	型	i兑 ⁰ 月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:33] (KEY:"行削除")	第1引数の取得
					· · ·
					了解 取消し

②の接続情報:削除する行位置(行インデックス)を指定して行を削除する。

型趙	動メソッド情報					×
	>	マッド 7を位置指定で削除する(int	i)	•	🔲 全メソッド対象	
NO	型	説明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値	
0	int	指定位置	メソッド戻り値	ファンクション [ID:33] (KEY:"行削除")	第2引数の取得	
			·	·		
					了解	取消し

③の接続情報:ファンクションの戻り値としてテーブルデータを返す。

№₫	² 動メソッド情報				×	
		メソッド テーブルを取	双得する()		▼	
NO	型	 兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値	
					7.2.7 F (1) (1)	

④の接続情報:定義した行削除処理を実行する。

۳z	起動メソッド情報						×
		メソッド	ファンクションの呼び出し(2引数)	Object,Object)		■ 1	ミメソッド対象
N	2型		記 兑8月	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
	0 Object		第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")		テーブルデータを取得する
	1 Object		第2引数	メソッド戻り値	数値入力力ウンタ [ID:36] (KEY:"行位置")		数値を取得する
							了解 取消し

⑤の接続情報:結果をテーブルに設定する。

₩2,	起動メソッド情報				×
		メソッド テーブ	ルデータを設定する(PFObjectTab	le)	▼ □ 全メソッド対象
NO	型		取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 PFObjectTable	テーブルデータ	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(2引…
					「ア解」「取消し」

<u>2.5</u>セルデータの取得



以下の図のように、テーブルデータからセルデータを取得するための処理手順について説明します。

🍐 元デ-	-夕・設定デ-	-9					🏼 操作籍	詰果・取得:	データ			
品名	型番	単価	個数 出荷先	設定用データ			品名	型番	単価	個数	出荷先	取得したデータ
部品1	PRD101	100	2 A社									
部品2	PRD102	120	2 A社	PRD999								120
部品3	PRD103 🕒	140	4 A社	い いっちょう いっちょう いっちょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう し	守田							807241 7-
部品4	PRD104	160	4 A社	データ(別田) ラ	()= ね(()=田)							リフトデータ
部品5	PRD105	180	2 A社		>(II)m)							
部品1	PRD101	100	1 B社	200 🔺	部品10							
部品2	PRD102	120	5 日社	220	PRD999							
部品3	PRD103	140	5 B社	240	150							
部品4	PRD104	160	4 日社	260	3							
部品5	PRD105	180	3 日社	280								
部品1	PRD101	100	2 C?±	200 =			n/					
部品2	PRD102	120	2 C社	200			Y					
部品3	PRD103	140	2 C?±	220								
部品4	PRD104	160	5 C社	240								
部品5	PRD105	180	5 C?±	260								
部品1	PRD101	100	2 D?±	280								
部品2	PRD102	120	2 D?±	200								
部品3	PRD103	140	1 D社	220								
部品4	PRD104	160	1 D社	220								
部品5	PRD105	180	2 D?±	240 -								
						-						
실 操作	パネル											
基本操作	乍 複合操作	帳票印版	到									
			Tuldhal (and)		Tre (D							
ÎT:	テータ取得・調	汉正	列移動 行科	(動) 部分テーフル		9-	ト (分) (一) ト 第 744	親ナーフル	1765%	セル1値計算	- 列里位集計	行里位集計
	列追加・削	除	រិករ	目加・削除		セル	レナータ収得	∮・設定			列データ取得	・設定
+7	山デーク取得	行位	罢 1 🗠 利位:	₽ 2▲								
tz,	ルデータ設定	行位	置 3 🚔 列位	置 1▲								

使用メソッド

テーブルデータからセルデータを取得するために使用するコンポーネント、基本メソッドおよび設定する 引数は次のとおりです。

コンポーネント	■テーブル格納変数				
メソッド	セルデータを位置指定で取得する(int, int)				
引数	第1引数:行位置				
	第2引数:列位置				
戻り値	Object				
行位置および列位置を指定してセルデータを取得します。					

接続例

動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された左側テーブルデータの行位置・列位置から、その位置のセルの値を取得し「テキストフィールド」に設定する処理手順を以下のように定義します。ここで セルデータ取得処理は「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数 に元テーブルデータ、第2引数に行位置、第3引数に列位置を指定してメソッド「ファンクションの呼び出 し(3引数)」を実行すると、結果の値が戻り値として得られるように定義しています。



🛂 起動メソッド情報				×
	メソッド テーブルを設定す	중(PFObjectTable)	 全メン 	リッド対象
NO 型	記印	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0 PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:38] (KEY:"セルデータ取得")	第1引数の取得
				了解 取消し

₩_ 走	己動メソッド情報				X
		メソッド セルデータを位置指定で取	得する(int,int)	 全メソ 	ッド対象
NO	型	i兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	int	指定行	メソッド戻り値	ファンクション [ID:38] (KEY:"セルデータ取得")	第2引数の取得
1	l int	指定列	メソッド戻り値	ファンクション [ID:38] (KEY:"セルデータ取得")	第3引数の取得
					了解 取消し

③の接続情報:定義したセルデータ取得処理を実行する。

M₂ i	起動メソッド情報				X
	メワッド	ファンクションの呼び出し(3引数	() (Object,Object,Obje	ect)	🗖 全メソッド対象
NO	型	記印	取得方法	コンボーネント	メソッド/値
	0 Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する
	1 Object	第2引数	メソッド戻り値	数値入力カウンタ [ID:41] (KEY:"行位置")	数値を取得する
	2 Object	第3引数	メソッド戻り値	数値入力カウンタ [ID:42] (KEY:"列位置")	数値を取得する
					了解 取消し

②の接続情報:行位置、列位置を指定してセルデータを取得し、ファンクションの戻り値として返す。

④の接続情報:結果をテキストフィールドに設定する。

<mark>™</mark> _ i	記動メソッド情報				×
		メソッド テキ ス	Rトを設定する(String)	▼ 2メソッド対象	
NO	型	記 兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	String	テキスト	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(3引
	·	·	·		·
					了解 取消し

<u>2.6</u>セルデータの設定



以下の図のように、テーブルデータのセルにデータを設定するための処理手順について説明します。

🍐 元デ-						J	실 操作科	結果・取得ラ						
品名	型番	単価	個数 出荷先	(設定用データ			品名	型番	単価	個数と	出荷先		取得したデータ
部品1	PRD101	100	2 Aż±	- 1				部品1	PRD101	100	2 A7	t	1	
部品2	PRD102	120	2 Až±	- 1	PRD999			部品2	PRD102	120	2 A7	£	1	
部品3	PRD103	140	4 A注		診会用	設立田	1	部品3 🦰	PRD102	140	4 A7	t]	₩70%長↓ +-
部品4	PRD104	160	4 A注		設定用	設定用		部品4	PRD999	160	4 A7	£]	
部品5	PRD105	180	2 A社		(mu)	(m) -5(m)		部品5 -	PRD105	180	2 A7	£		UXF) -3
部品1	PRD101	100	1 日社		200 🔺	部品10		部品1	PRD101	100	1 Bł	t		
部品2	PRD102	120	5 日社		220	PRD999		部品2	PRD102	120	5 Bł	±		
部品3	PRD103	140	5 B社		240	150		部品3	PRD103	140	5 Bł	±		
部品4	PRD104	160	4 日社		260	3		部品4	PRD104	160	4 Bł	±		
部品5	PRD105	180	3 B社		290	E2+		【116品5	PRD105	180	3 Bł	t		
部品1	PRD101	100	2 C社		200 =			<u>۶</u> 1	PRD101	100	2 C	±		
部品2	PRD102	120	2 C社		200				PRD102	120	2 C	±		
部品3	PRD103	140	2 C社		220			都品3	PRD103	140	2 C	±		
部品4	PRD104	160	5 C社		240			部品4	PRD104	160	5 C	±		
部品5	PRD105	180	5 C社		260			部品5	PRD105	180	5 C	±		
部品1	PRD101	100	2 D社		280			部品1	PRD101	100	2 D	±		
部品2	PRD102	120	2 D社		200			部品2	PRD102	120	2 D	±		
部品3	PRD103	140	1 D社		220			部品3	PRD103	140	1 D	±		
部品4	PRD104	160	1 D社		240			部品4	PRD104	160	1 D	±		
部品5	PRD105	180	2 D?±		240 -			部品5	PRD105	180	2 D	±		
					- 1-11									
실 操作	パネル													
基本操作	作 複合操作	帳票印刷	8)											
17	デーク取得・副		万川52.64 (二部)	ź÷.	#R(八字		1 - 1	L A	精テーゴルイ		わし値計算	5	间销行集制	行用位集計
	ノージャパサ・部 天地自由。 常山	RAE RA	クリイジョル 1 1 イ3	増力 Stan -	1 C 49	71/4317	+21	ビー 2月 デーク取る	*夏,学之/// 星,歌空	F0%	그는//기면리 뷰	7	"中华"这来可 "一方面够了。那	山半位未可
	2010 <u>9</u> 1191	ゆホ	גדו	⊒NN .	月小Pホ		en.	/) .>.4xr	T BARE			עויע	- 一次 収付・言丸	UE
tz,	ルデータ取得	行位	置 🛛 1 🚔 列位:	置	2 ≑									
				_										
t	ルデータ設定	行位。	置 3 🔷 列位	罿	1 ≑									
								-)						
							0)	r						

使用メソッド

テーブルデータのセルにデータを設定するために使用するコンポーネント、基本メソッドおよび設定する 引数は次のとおりです。

コンポーネント	■テーブル格納変数
メソッド	セルデータを位置指定で設定する(int, int, Object)
引数	第1引数:行位置
	第2引数:列位置
	第3引数:データ
戻り値	なし
行位置および列位置を指定してセル	<i>、</i> データを設定します。

接続例

動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された左側テーブルデータの行位置・列位置のセルに 値を設定し、その結果を右側の「テーブル」に設定する処理手順を以下のように定義します。ここでセルデ ータ設定処理は「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に元テ ーブルデータ、第2引数に行位置、第3引数に列位置、第4引数に設定データを指定してメソッド「ファン クションの呼び出し(4引数)」を実行すると、結果の値が戻り値として得られるように定義しています。

<mark>- ファンクション ID : 46 KEY : "セルデータ設定"</mark>	処理要求イベント	テーブルを設定する セルデータを位置指定で設定する テーブルを取得する	① ② ③	 ■ テーブル格納変数 D:47 KEY:"データ抹作用" ■ テーブル格納変数 D:47 KEY:"データ抹作用" ■ テーブル格納変数 D:47 D:47 KEY:"データ抹作用"
 ラーブル格納変数 D:47 次EY:"データ操作用" 実行例■●● ボタン D:48 (D:48 KEY:"セルデータ設定" 	アクションイベント	■■■セルデータ設定■■■ 第17 数:元テーブルデータ,第23 数:デー3 第43 数:セルの値 戻り値:テーブルデータ ファンクションの呼び出し(43 数)	P設定行位置 ④	 第33 (数:データ設定列位置, ファンクション
数値入力カウンタ D:49 KEY:16位置 び数値入力カウンタ D:50 KEY:191位置	Ľ	プ テーブルデータを設定する	6	ID: 46 KEY: "セルデータ設定" プ テーブル D: 8 KEY: "操作後データ"

①の接続情報:処理対象のテーブルデータを設定する。

₩2 歳	己動メソッド情報				x
		メソッド テーブルを設定する	중(PFObjectTable)	▼ 2×	ソッド対象
NO	型	說明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
(PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:46] (KEY:"セルデータ設定")	第1引数の取得
	·				
					了解 取消し

②の接続情報:行位置、列位置を指定してセルデータを設定する。

	メソッド セルデータを位置	計定で設定する(int,int,Object)	
NO 型	記光 8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0 int	指定行	メソッド戻り値	ファンクション [ID:46] (KEY:"セルデータ設定")	第2引数の取得
1 int	指定列	メソッド戻り値	ファンクション [ID:46] (KEY:"セルデータ設定")	第3引数の取得
2 Object	設定するデータ	メソッド戻り値	ファンクション [ID:46] (KEY:"セルデータ設定")	第4引数の取得
				了解 取消し

③の接続情報:ファンクションの戻り値としてテーブルデータを返す。

型起	己動メソッド情報				x
		メソッド テーブルを 耳	双得する()		▼
NO	型	 兌 月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
					了解 取消し

④の接続情報:定義したセルデータ設定処理を実行する。

₩_ 走	記動メソッド情報				×
	メワッド [ファンクションの呼び出し(4引数) (Object,Object,Obje	<mark>ect,Object)</mark>	メソッド対象
NO	型	記 月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する
1	Object	第2引数	メソッド戻り値	数値入力力ウンタ [ID:49] (KEY:"行位置")	数値を取得する
2	Object	第3引数	メソッド戻り値	数値入力力ウンタ [ID:50] (KEY:"列位置")	数値を取得する
3	Object	第 4引数	メソッド戻り値	テキストフィールド [ID:5] (KEY:"設定するセルデータ")	テキストを取得する
					了解 取消し

⑤の接続情報:結果をテーブルに設定する。

🏪 起動	カメソッド情報				×				
	メソッド <mark>テーブルデータを設定する(PFObjectTable)</mark> 🔹 📄 全メソッド対象								
NO 5	헫	記印月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値				
0 PI	FObjectTable	テーブルデータ	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(4引…				
					了解 取消し				

2.7 列データの取得



以下の図のように、テーブルデータから列データを取得するための処理手順について説明します。

						실 操作組	課・取得:	データ					
品名	型番	単価	國数 出	前先 設定用	データ		品名	型番	単価	個数	出荷先		取得したデータ
部品1	PRD101	100	2 A社									-	
部品2	PRD102	120	2 A社	PRD	999								
部品3	PRD103	140	4 A社		設会用								ETT/R t-
部品4	PRD104	160	4 A社	一般に用	(列田) ギーカバー田								
部品5	PRD105	180	2 A社		הרואכידי (העיט	<u> </u>							9217-3
部品1	PRD101	100	1 B社	200	▲ 部品10								100 🔺
部品2	PRD102	120	5 日社	220	PRD999								120
部品3	PRD103	140	5 B社	240	150								140
部品4	PRD104	160	4 B社	260	3 —								160
部品5	PRD105	180	3 B社	280	E2+								180
部品1	PRD101	100	2 C社	200									100
部品2	PRD102	120	2 C社	200			r						100
部品3	PRD103	140	2 C社	220									120
部品4	PRD104	160	5 C7±	240									140
部品5	PRD105	180	5 C7±	260									160
部品1	PRD101	100	2 D7±	280									180
apas2	PRD102	120	2 D/1	200									100
	PRD103	140		220									120
	PRD104	160	1041	240									140
EPoop	PRD 105	180	ZUTI		T								160
실 操作/	パネル												
基本操作	1 複合操作	帳票印刷]										
177	データ取得・	設定	列移動	行移動 部分	シテーブル取得	·)-	ト 分類	酒テーブル	作成	セル値計	省场	前単位集計	行単位集計
	列追加・肖			行追加・削除		セル	レデータ取得	・設定			列テ	「一夕取得・設	定
		7											
列ラ	列データ取得 列位置 2 😓												
利于	データ設定	列位置	2 🔹										
	クリア												

使用メソッド

テーブルデータから列データを取得するために使用するコンポーネント、基本メソッドおよび設定する引数は次のとおりです。

コンポーネント	■テーブル格納変数				
メソッド	列データリストを位置指定で取得する(int)				
引数	第1引数:列位置				
戻り値	PFObjectList				
列位置を指定して列データ(リスト)を取得します。					

接続例

動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された左側テーブルデータの列位置から、その位置の 列データをリストとして取得し「リスト」に設定する処理手順を以下のように定義します。ここで列データ 取得処理は「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に元テーブ ルデータ、第2引数に列位置を指定してメソッド「ファンクションの呼び出し(2引数)」を実行すると、結 果の値が戻り値として得られるように定義しています。



<mark>™</mark> _ ;	記動メソッド情報				×
		マソッド対象			
NO	型	i兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:53] (KEY:"列データ取得")	第13 数の取得
		· · ·			
					了解 取消し

②の接続情報:列位置を指定して列データを取得し、ファンクションの戻り値として返す。

₩2 走	記動メソッド情報				×
		メソッド <mark>列データリ</mark>	ストを位置指定で取得する(int)	全;	メソッド対象
NO	型	i兑印月	取得方法	コンボーネント	メソッド/値
0	Dint	指定位置	メソッド戻り値	ファンクション [ID:53] (KEY:"列データ取得")	第2引数の取得
					了解 取消し

③の接続情報:定義した列データ取得処理を実行する。

₩_ 走	己動メソッド情報				×	
	メソッド	ファンクションの呼び出し(2引数		▼ 🗖 全メソッド対象		
NO	型	說明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値	
0	Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する	
1	Object	第2引数 メソ		数値入力力ウンタ [ID:56] (KEY:"列位置")	数値を取得する	
					· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
					了解 取消し	

④の接続情報:結果をリストに設定する。

₩2	記動メソッド情報				×
		メソッド 全項目を再設定	官する(PFObjectList)	▼ 🗖 全メソッド対象	
NO	型	 兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	PFObjectList	項目のラベル名リスト	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(2引
					了解 取消し

2.8 列データの設定



以下の図のように、テーブルデータに列データを設定するための処理手順について説明します。

실 元デ-	モデータ・設定データ ロ 回							실 操作科	結果・取得法	データ			
品名	型番	単価	個数 出荷先		設定用データ			品名	型番	単価	個数 出	荷先	取得したデータ
部品1	PRD101	100	2 A社	-				部品1	PRD101	200	2 Aż±		
部品2	PRD102	120	2 A7±		PRD999			部品2	PRD102	220	2 A社		
部品3	PRD103	140	4 A注	- /	=	1 m		部品3	PRD10B	240	4 A社		TTVEL +-
部品4	PRD104	160	4 A社	7 []	設定用	风走用 11、 万 <i>公</i> 二田)		部品4	PRD104	260	4 A社		401年した
部品5	PRD105	180	2 A社		テージ(別用)	Г−≫((тн))		部品5	PRD105	280	2 A社		UX17-9
部品1	PRD101	100	1 日社		200 🔺	部品10		部品1	PRD101	200	1 B社		100 🔺
部品2	PRD102	120	5 日社		220	PRD999		部品2	PRD102	220	5 B社		120
部品3	PRD103	140	5 B社		240	150		部品3	PRD10B	240	5 B社		140
部品4	PRD104	160	4 日社		260	2		₩品4	PRD104	260	4 日社		160
部品5	PRD105	180	3 B社		200	5		55	PRD105	280	3 B社		100
部品1	PRD101	100	2 C?±		280 =			a /a1	PRD101	200	2 C社		180 =
部品2	PRD102	120	2 C社		200			都品2	PRD102	220	2 C社		100
部品3	PRD103	140	2 C社		220			部品3	PRD10B	240	2 C社		120
部品4	PRD104	160	5 C社		240			部品4	PRD104	260	5 C社		140
部品5	PRD105	180	5 C社		260			部品5	PRD105	280	5 C社		160
部品1	PRD101	100	2 D社		280			部品1	PRD101	200	2 D社		180
部品2	PRD102	120	2 D社		200			部品2	PRD102	220	2 D社		100
部品3	PRD103	140	1 D社		220			部品3	PRD10	240	1 D社		120
部品4	PRD104	160	1 D社		240			部品4	PRD10	260	1 D社		140
部品5	PRD105	180	2 D?±		240 +			部品5	PRD105	280	2 D社		140 -
				U U							/		
실 操作	パネル												
基本操作	作 複合操作	帳票印刷	1										
27	デーク取得・目	<u>ہ</u> ج	万川松油 /=	\$2.#h	部公ティーブ	1.111/2月 、	- 1	ь — —	箱テーブル	Vect	拉山值計算	利用供用	行用位集計
11	テージ 401寸・言 万山自力の - 光山	双ルヒ IR会	2191多重月 11-	1夕里川		1/4X17F .		F カ ニニー 万町12	#見 デー フル 温 、 記一字	TEPA	12/12/1831 😝		11単11/乗前 設定
	21)JE/JU - A1	「「「」「「」「」「」「」「」「」」「」」「」」「」」「」」「」」」「「」」」」	1 11	1970. L	HUPT I		2/	20 – CX 4X1	4. SYVE			717 244,10	6XAE
一列	データ取得	列位置	2 🌲										
列データ設定 列位置 2 🔶													
								2					

使用メソッド

テーブルデータに列データを設定するために使用するコンポーネント、基本メソッドおよび設定する引数 は次のとおりです。

コンポーネント	■テーブル格納変数
メソッド	<pre>setColumn(int, PFObjectList)</pre>
引数	第1引数:列位置
	第2引数:列データ(リスト)
戻り値	なし
列位置を指定して列データを設定し	<i>.</i> ます。

接続例

動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された左側テーブルデータの列位置に列データを設定 し、その結果を右側の「テーブル」に設定する処理手順を以下のように定義します。ここで列データ設定処 理は「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に元テーブルデー タ、第2引数に列位置、第3引数に設定データを指定してメソッド「ファンクションの呼び出し(3引数)」 を実行すると、結果の値が戻り値として得られるように定義しています。

ファンクション	処理要求イベント	- テーブルを設定する	(1)	デーブル格納変数
ID:59 KEY:"列データ設定"	J	2		ID : 60 KEY : "データ操作用"
		setColumn	2	テーブル格納変数
				ID : 60 KEY : "データ操作用"
		テーブルを取得する	3	 テーブル格納変数
				ID:60 KEY:"データ操作用"
- テーブル格納変数)			
ID:60 KEY:"データ操作用"	J			
■■■実行例■■■				
■ボタン ID:61	アクションイベント	■■■列データ設定■■■ 第1引数:元テーブルデータ、第2引数:デー	勾設定列位置	- 第3別数:列データ(リスト)
KEY:"列データ設定")	戻り値:テーブルデータ		
	F	ファンクションの呼び出し(3引数)	4	
		ŕ		ID:59 KEY:"列データ設定"
		テーブルデータを設定する	(5)	<u> </u>
			Ŭ	ID:8 KEY:"操作後データ"
一数値入力力ウンタ				

₩₂	2動メソッド情報				×
		メソッド テーブルを設定す	중(PFObjectTable)	ミメソッド対象	
NO	型	ii 兑8月	取得方法	コンボーネント	メソッド/値
(PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:59] (KEY:"列データ設定")	第1引数の取得
	1		I	,	
					了解 取消し

②の接続情報:列位置を指定して列データを設定する。

₩₂	己動メソッド情報				X				
メソッド setColumn(int,PFObjectLis			t)						
NO	型	記用	取得方法	コンボーネント	メソッド/値				
0	Dint		メソッド戻り値	ファンクション [ID:59] (KEY:"列データ設定")	第2引数の取得				
1	1 PFObjectList		メソッド戻り値	ファンクション [ID:59] (KEY:"列データ設定")	第3引数の取得				
					了解 取消し				

③の接続情報:ファンクションの戻り値としてテーブルデータを返す。

型起	己動メソッド情報					×
		メソッド テーブルを	取得する()		▼ ■ 全メソッド対象	
NO	型	 兑 日月	取得方法	コンポーネント	メソ	ッド/値
						了解 取消し

④の接続情報:定義した列データ設定処理を実行する。

<mark>™</mark> 2‡	起動メソッド情報				X
	メソッド	ファンクションの呼び出し(3引数)) (Object,Object,Obje	ct) 🔽	全メソッド対象
NO	型	記 兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する
	1 Object	第2引数	メソッド戻り値	数値入力力ウンタ [ID:62] (KEY:"列位置")	数値を取得する
	2 Object	第3引数	メソッド戻り値	リスト [ID:6] (KEY:"設定するリストデータ(列用)")	すべての項目のラベル名を取得する
					了解 取消し

⑤の接続情報:結果をテーブルに設定する。

₩2;	起動メソッド情報					X		
		メソッド テーブ	ルデータを設定する(PFObjectTab	e) 🔹 🔍 🔽 全メソッド対象				
NO	型		取得方法	コンポーネント		メソッド/値		
	0 PFObjectTable	テーブルデータ	メソッド処理結果	-		ファンクションの呼び出し〈3引…		
						了解 取消し		



以下の図のように、テーブルデータから行データを取得するための処理手順について説明します。

	🌢 元デ・	ータ・設定デー	-夕			_	- O X		실 操作結	果・取得ラ	データ				
	品名	型番	単価	個数 出行	売	設定用データ			品名	型番	単価	個数	出荷先		取得したデータ
ار		PRD101	100	2 (***		PRD999									
Ê	SPOO2	PRD102	120	2 AFI	— J	110000									
1		PPD103	140	4 454		設定用	設定用								取得した
	18 0 6	PRD 104	100	4 At1	_	データ(列用)	データ(行用)								リストデータ
1		PRD103	100	1 02+	_	200	±2 □ 10								邦里の
	FDD 「 昭巳つ	PRD102	120	5 82+	_	200									89002
1	8日3	PRD103	140	5 82+	_	220	PRD999								PRD102
1	彩品 <u>4</u>	PRD104	160	4 B2+	_	240	150		`						120
ž	8品5	PRD105	180	3 B2+	_	260	3		\backslash						2
	影品1	PRD101	100	2 C?t		280 =	E社		1						A社
Į,	5品2	PRD102	120	2 C ²⁺		200			/						
	\$品3	PRD103	140	2 C21		220									
1	\$品4	PRD104	160	5 C社		240									
1	\$8品5	PRD105	180	5 C社		260									
1	路品1	PRD101	100	2 D社		280									
1	\$品2	PRD102	120	2 D社		200									
1	\$883	PRD103	140	1 D社		220									
ź	\$品4	PRD104	160	1 D社		220									
1	\$8品5	PRD105	180	2 D社		240 -									
	실 操作	パネル													
	基本操	作 複合操作	帳票印刷	別											
		列始自力ロ・肖	除		行追加・	削除		セル	データ取得	・設定			列ラ	ドータ取得・影	发定
	行	データ取得・副	定	列移動	行移動	部分テーブ	ル取得	ソート	分類	夏テーブル1	作成	セル値	算 3	列単位集計	行単位集計
1		二". 5 形成目	(二)古里												
		्र −:> म×ार्च	111位置												
	ÎŦ	データ設定	行位置	3 🚔											
	[
								クリア							

使用メソッド

テーブルデータから行データを取得するために使用するコンポーネント、基本メソッドおよび設定する引数は次のとおりです。

コンポーネント	■テーブル格納変数			
メソッド	行データリストを位置指定で取得する(int)			
引数	第1引数:行位置			
戻り値	PFObjectList			
行位置を指定して行データ(リスト)を取得します。				



動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された左側テーブルデータの行位置から、その位置の 行データをリストとして取得し「リスト」に設定する処理手順を以下のように定義します。ここで行データ 取得処理は「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に元テーブ ルデータ、第2引数に行位置を指定してメソッド「ファンクションの呼び出し(2引数)」を実行すると、結 果の値が戻り値として得られるように定義しています。

<mark>- ファンクション ID:64 KEY: "行データ取得"</mark>	処理要求イベント	テーブルを設定する テーブルを設定する 行データリストを位置指定で取得する	0 2	 テーブル格納変数 D:65 KEY."データ操作用" アーブル格納変数 D:65 KEY."データ操作用"
 ラーブル格納変数 ID:65 KEY:"データ操作用" ■ 実行例■■■ ゴボタン ID:66 KEY:"(デデータ取得" 	アクションイベント	 ■■■行データ取得■■■ 第131数:元テーブルデータ,第231数:データ 戻り値:行データ(Uスト) 	取得行位置	
		ローファンクションの呼び出し(2引数) 全項目を再設定する	3 4	
数値入力カウンタ D:67 KEY:"行位置"				

₩2 #	記動メソッド情報				×				
		メソッド テーブルを設定す	중(PFObjectTable)	• 2 全	▼ 2メソッド対象				
NO	型	記日月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値				
(PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:64] (KEY:"行データ取得")	第1引数の取得				
		· · · ·		· ·					
					了解 取消し				

②の接続情報:行位置を指定して行データを取得し、ファンクションの戻り値として返す。

M ₂	起動メソッド情報					×
	:	メソッド 行データリストを位置指定	で取得する(int)	▼	🔲 全メソッド	村象
NO	型	 兑8月	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
	0 int	指定位置	メソッド戻り値	ファンクション [ID:64] (KEY:"行データ取行	得")))	第2引数の取得
						了解 取消し

③の接続情報:定義した行データ取得処理を実行する。

₩_ 走	記動メソッド情報				X
	メソッド	ファンクションの呼び出し(2引数	(Object,Object)		💌 🗖 全メソッド対象
NO	型	i说8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する
1	Object	第2引数	メソッド戻り値	数値入力力ウンタ [ID:67] (KEY:"行位置")	数値を取得する
				·	·
					「ア解」「取消し」

④の接続情報:結果をリストに設定する。

M ₂	起動メソッド情報				×
		メソッド 全項目で	を再設定する(PFObjectList)	▼ 全メソッド対象	
NO	型	i兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 PFObjectList	項目のラベル名リスト	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(2引…
					了解 取消し

2.10 行データの設定



以下の図のように、テーブルデータに行データを設定するための処理手順について説明します。

						실 操作科	吉果・取得テ	-タ				
品名	型番	単価	個数 出荷先	設定用データ			品名	型番	単価	個数 出	前先	取得したデータ
部品1	PRD101	100	2 A社				部品1	PRD101	100	2 A7±		
部品2	PRD102	120	2 A?±	PRD999			部品2	PRD102	120	2 Aż±		
部品3	PRD103	140	4 A?±	1 =	1		#P800	PRD103	140	4 (**1		TTVB +
部品4	PRD104	160	4 A社	設定用	設定用		部品10	PRD999	150	3 E社		収1守した
部品5	PRD105	180	2 A社	(העיש) אב – כ) = > (1)H)		6Poo D	PRD105	180	2 AFI		
部品1	PRD101	100	1 B社	200 🔺	部品10		部品1	PRD101	100	1 B社		
部品2	PRD102	120	5 日社	220	PRD999		部品2	PRD102	120	5 日社		
部品3	PRD103	140	5 日社	240	150		部品3	PRD103	140	5 日社		
部品4	PRD104	160	4 B社	260	3		彩品4	PRD104	160	4 日社		
部品5	PRD105	180	3 日社	200	5 F*1		5	PRD105	180	3 日社		
部品1	PRD101	100	2 Cネ±	280 =			_ /= 1	PRD101	100	2 C社		
部品2	PRD102	120	2 C社	200			都品2	PRD102	120	2 C社		
部品3	PRD103	140	2 C社	220			部品3	PRD103	140	2 C社		
部品4	PRD104	160	5 C社	240			部品4	PRD104	160	5 C社		
部品5	PRD105	180	5 C社	260			部品5	PRD105	180	5 C社		
部品1	PRD101	100	2 D?±	280			部品1	PRD101	100	2 D社		
部品2	PRD102	120	2 D社	200			部品2	PRD102	120	2 D社		
部品3	PRD103	140	1 D社	220			部品3	PRD103	140	1 D社		
部品4	PRD104	160	1 D社	240			部品4	PRD104	160	1 D社		
部品5	PRD105	180	2 D?±	240 -			部品5	PRD105	180	2 D社		
						ノ						
실 操作	パネル											
基本操	作 複合操作	帳票印版	刮									
	豕心自力の・背 川	B余		自力の・買い服金		1 7,1	レデータ取得	鼻・設定			列データ取	2得・設定
行	データ取得・副	定	列移動 行利	1 部分テー:	ブル取得	-v	ト 分	・ united 類テーブルf	乍成	セル値計算	列単位集	ま 計 行 単 位 集 計
ŤŢ	データ取得	行位置	1									
(T	データ設定	行位置	3*									

使用メソッド

テーブルデータに行データを設定するために使用するコンポーネント、基本メソッドおよび設定する引数 は次のとおりです。

コンポーネント	■テーブル格納変数				
メソッド	setRow(int, PFObjectList)				
引数	第1引数:行位置				
	第2引数:行データ(リスト)				
戻り値	なし				
行位置を指定して行データを設定します。					

接続例

動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された左側テーブルデータの行位置に行データを設定 し、その結果を右側の「テーブル」に設定する処理手順を以下のように定義します。ここで行データ設定処 理は「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に元テーブルデー タ、第2引数に行位置、第3引数に設定データを指定してメソッド「ファンクションの呼び出し(3引数)」 を実行すると、結果の値が戻り値として得られるように定義しています。



₩」	2動メソッド情報				×
		メソッド テーブルを設定す	중(PFObjectTable)	• 22	マンッド対象
NO	型	記 兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:70] (KEY:"行データ設定")	第1引数の取得
					了解 取消し

②の接続情報:行位置を指定して行データを設定する。

₩_ 走	己動メソッド情報				X
		メソッド setRow(int,PFO	bjectList)	▼ 2×	ソッド対象
NO	型	i兑8月	取得方法	コンボーネント	メソッド/値
0	Dint		メソッド戻り値	ファンクション [ID:70] (KEY:"行データ設定")	第2引数の取得
1	1 PFObjectList		メソッド戻り値	ファンクション [ID:70] (KEY:"行データ設定")	第3引数の取得
					了解 取消し

③の接続情報:ファンクションの戻り値としてテーブルデータを返す。

۳z	起動メソッド情報					3
		メソッド <mark>テーブルを</mark> 耳	双得する()		🗾 💌 全メソッド対象	
N	0 型	 第第1	取得方法	コンポーネント	メソッド/値	
L						
					了解 取消し	

④の接続情報:定義した行データ設定処理を実行する。

₩2 #	起動メソッド情報					×
	メソッド	ファンクションの呼び出し(3引数)) (Object,Object,Obje	ct) 💌	🔳 全	メソッド対象
NO	型	説明	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
	0 Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")		テーブルデータを取得する
	1 Object	第2引数	メソッド戻り値	数値入力力ウンタ [ID:73] (KEY:"行位置")		数値を取得する
	2 Object	第3引数	メソッド戻り値	リスト [ID:7] (KEY:"設定するリストデータ(行用)) ")	すべての項目のラベル名を取得する
						了解 取消し

⑤の接続情報:結果をテーブルに設定する。

₩2;	起動メソッド情報				×
メソッド テーブルデータを設定する(PFObjectTable)					
NO	型	記 知月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 PFObjectTable	テーブルデータ	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(3引
					了解 取消し
<u> </u>					
<u>2.11 列の移動</u>



以下の図のように、テーブルデータの列を移動するための処理手順について説明します。

실 元T								실 操作結	課・取得テ	-9		-								
品約	型番	単価	個数	出荷先		設定用データ			品名	単価	個数	型番	出	前先	取得したデータ					
部品1	PRD101	100	2	ARL]				部品1	100		2 PRD101	Ażt							
部品2	PRD102	120	2	Ażt]	PRD999			部品2	120		2 PRD102	Ażt							
部品3	PRD103	140	4	AAL]	設金田	設守田		部品3	140		4 PRD103	A社		町が母」 t-					
部品4	PRD104	160	4	A社		データの田	設定用 データ(行用)		部品4	160		4 PRD104	Ażt		ロフトデータ					
部品5	PRD105	180	2	AAL					部品5	180		2 PRD105	Ażt							
部品1	PRD101	100	1	时社		200 🔺	部品10		部品1	100		1 PRD101	B社							
部品2	PRD102	120	5	时社		220	PRD999		部品2	120		5 PRD102	B社							
部品3	PRD103	140	5	8社		240	150		部品3	140		5 PRD103	昭社							
部品4	PRD104	160	4	8社		260	3		1684	160		4 PRD104	B社							
部品5	PRD105	180	3	日社		280	E2+		5	180		3 PRD105	昭社							
部品1	PRD101	100	2	C社		200 =				100		2 PRD101	C社							
部品2	PRD102	120	2	C社		200			都品2	120		2 PRD102	C社							
部品3	PRD103	140	2	C社		220			部品3	140		2 PRD103	C社							
部品4	PRD104	160	5	C社		240			部品4	160		5 PRD104	C社							
部品5	PRD105	180	5	C社		260			部品5	180		5 PRD105	C社							
部品1	PRD101	100	2	D社		280			部品1	100		2 PRD101	D社							
部品2	PRD102	120	2	D社		200			部品2	120		2 PRD102	D社							
部品3	PRD103	140	1	D社		220			部品3	140		1 PRD103	D社							
部品4	PRD104	160	1	D社		240			部品4	160		1 PRD104	D社							
部品5	PRD105	180	2	D社		240 +			部品5	180		2 PRD105	D社							
								1			<u> </u>									
	ドパスル								`											
	F7 (190																			
基本排	作複合操作「	帳票印版	利																	
	列追加・削脂	余 ,		(行)	自加・	削除		セル	レデータ取得	・設定				列データ取得・調	設定					
í.	iデータ取得・設	定	列移	肋 行利	鋤	部分テーコ	ブル取得	<u>y</u> -	ト 分類	頁テーブル(阳成	セル値計	貿	列単位集計	行単位集計					
5	118計 移動量	和位置	1	彩曲生	利托克马	₽ 3 <u></u>														
	199071	67-31218		199006	2.0120		J													
								בעול	7											
											<i>907</i>									

使用メソッド

テーブルデータの列を移動するために使用するコンポーネント、基本メソッドおよび設定する引数は次の とおりです。

コンポーネント	■テーブル格納変数				
メソッド	<pre>moveColumn(int, int)</pre>				
引数	第1引数:移動元列位置				
	第 2 引数:移動先列位置				
戻り値	なし				
移動元列位置および移動先列位置を指定して列を移動します。					

接続例

動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された列位置に従い左側テーブルデータの列データを 移動させ、その結果を右側の「テーブル」に設定する処理手順を以下のように定義します。ここで列移動処 理は「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に元テーブルデー タ、第2引数に移動元列位置、第3引数に移動先列位置を指定してメソッド「ファンクションの呼び出し(3 引数)」を実行すると、結果の値が戻り値として得られるように定義しています。



①の接続情報:処理対象のテーブルデータを設定する。

№₫	副メソッド情報							
メソッド テーブルを設定する(PFObjectTable)								
NO	型	ii 兌8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値			
0	PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:75] (KEY:"列移動")	第1引数の取得			
					「了解」「取消し」			

②の接続情報:列位置を指定して列を移動する。

🔁 起動メソッド	情報			×
	メソッド moveColumn(i	int,int)	▼	全メソッド対象
NO 型	記 元 日月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0 int		メソッド戻り値	ファンクション [ID:75] (KEY:"列移動")	第2引数の取得
1 int		メソッド戻り値	ファンクション [ID:75] (KEY:"列移動")	第3引数の取得
				了解 取消し

③の接続情報:ファンクションの戻り値としてテーブルデータを返す。

型起	記動メソッド情報					×
	×	ソッド テーブルを取得する()			▼ ■ 全メソッド	対象
NO	型	説明	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
<u> </u>						
						了解 取消し

④の接続情報:定義した列移動処理を実行する。

Mح	起動メソッド情報					×
	:	メソッド	ファンクションの呼び出し(3引数)	(Object,Object,Object	ct) 🔽	全メソッド対象
NC	型		記明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 Object		第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する
	1 Object		第2引数	メソッド戻り値	数値入力カウンタ <mark>[ID:78] (KEY:"移動元列位置")</mark>	数値を取得する
	2 Object		第3引数	メソッド戻り値	数値入力カウンタ <mark>[ID:79] (KEY:"移動先列位置")</mark>	数値を取得する
						了解 取消し

⑤の接続情報:結果をテーブルに設定する。

≌起	副メソッド情報				x
		メソッド <mark>テーブ</mark> ノ	レデータを設定する(PFObjectTab	le) 🗸] 🔲 全メソッド対象
NO	型	記 1 月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	PFObjectTable	テーブルデータ	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(3引…
					了解 取消し

<u>2.12</u>行の移動



以下の図のように、テーブルデータの行を移動するための処理手順について説明します。

6 元デ・	ータ・設定デー	-9			×	실 操作科	吉果・取得テ					
品名	型番	単価	個数 出荷先	設定用データ		品名	型番	単価	個数	出荷先		取得したデー
	PRD101	100	2 (*±			部品1	PRD101	100	2	A社	1	
昂品2	PRD102	120	2 Až±	PRD999		部品3	PRD103	140	4	Ażt		
880	PRD103	140	4 /*1			±R⊟4	PRD104	160	4	<u>Aż±</u>		町が長りた。
昂品4	PRD104	160	4 A注	一 設定用 一 設定用	(= FB)	部品2	PRD102	120	2	Ażt		
昂品5	PRD105	180	2 A社) ((Huro) (1/H)	±₽₽5	PRD105	190	2	<u>A2+</u>		
昂品1	PRD101	100	1 B社	200 🔺 部品10)	部品1	PRD101	100	1	时之		
昂品2	PRD102	120	5 B社	220 PRD9	99	部品2	PRD102	120	5	时社		
昂品3	PRD103	140	5 B社	240 150		部品3	PRD103	140	5	B社		
β品4	PRD104	160	4 B社	260 3		16日4	PRD104	160	4	日社		
β品5	PRD105	180	3 日社	280		5	PRD105	180	3	8社		
β品 1	PRD101	100	2 C社				PRD101	100	2	C社		
品2	PRD102	120	2 C社	200		都品2	PRD102	120	2	C社		
品3	PRD103	140	2 C社	220		部品3	PRD103	140	2	CAT		
品4	PRD104	160	5 C社	240		部品4	PRD104	160	5	CAT	-	
品5	PRD105	180	5 C社	260		部品5	PRD105	180	5	Cźź		
品1	PRD101	100	2 D21	280		部品1	PRD101	100	2	D社		
品2	PRD102	120	2 D社	200		部品2	PRD102	120	2	D社		
8品3	PRD103	140	1 D社	220		部品3	PRD103	140	1	D社		
p品4	PRD104	160	1 D?±	240		部品4	PRD104	160	1	D 社		
й 665	PRD105	180	2 D71	260 -		部品5	PRD105	180	2	Drt		
≦」 操作								_				
基本操	作複合操作	帳票印刷	N						1			
	列追加・肖	嵃	行追	加・削除	セ	ルデータ取得	身・設定			列ラ	「一タ取得・設	定
ÎŤ	データ取得・	設定	列移動 行移調	あるテーブル取得	- V-	·ト 分	類テーブル作	乍成	セル値計	算 月	列単位集計	行単位集計
17 - 24417 882C 271529 17229 17229 17229 1722 172417 2 1 7387 - 2701893 見 27423 1 11年以来81 11年以81 11年11 11年1												
207												

使用メソッド

テーブルデータの行を移動するために使用するコンポーネント、基本メソッドおよび設定する引数は次の とおりです。

コンポーネント	■テーブル格納変数				
メソッド	moveRow(int, int)				
引数	第1引数:移動元行位置				
	第2引数:移動先行位置				
戻り値	なし				
移動元行位置および移動先行位置を指定して行を移動します。					

接続例

動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された行位置に従い左側テーブルデータの行データを 移動させ、その結果を右側の「テーブル」に設定する処理手順を以下のように定義します。ここで行移動処 理は「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に元テーブルデー タ、第2引数に移動元行位置、第3引数に移動先行位置を指定してメソッド「ファンクションの呼び出し(3 引数)」を実行すると、結果の値が戻り値として得られるように定義しています。



①の接続情報:処理対象のテーブルデータを設定する。

₩2	己動メソッド情報				×
		全メソッド対象			
NO	型	i说8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
(PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:83] (KEY:"行移動")	第1引数の取得
					了解 取消し

②の接続情報:行位置を指定して行を移動する。

₩ 起	動メソッド情報				×			
	メソ	ッド moveRow(int,int)	▼ 🗖 全メソッド対象					
NO	型	兑B月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値			
0	int		メソッド戻り値	ファンクション [ID:83] (KEY:"行移動")	第2引数の取得			
1	int		メソッド戻り値	ファンクション [ID:83] (KEY:"行移動")	第3引数の取得			
					了解 取消し			

③の接続情報:ファンクションの戻り値としてテーブルデータを返す。

型起	記動メソッド情報					×
	×	ソッド テーブルを取得する()			▼ ■ 全メソッド	対象
NO	型	説明	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
<u> </u>						
						了解 取消し

④の接続情報:定義した行移動処理を実行する。

∾∠	起動メソッド情報					×
	:	メソッド	ファンクションの呼び出し(3引数)	(Object,Object,Object	ct) 🔽	全メソッド対象
NC	型		記明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 Object		第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する
	1 Object		第2引数	メソッド戻り値	数値入力カウンタ [ID:86] (KEY:"移動元行位置")	数値を取得する
	2 Object		第3引数	メソッド戻り値	数値入力カウンタ [ID:87] (KEY:"移動先行位置")	数値を取得する
						了解 取消し

⑤の接続情報:結果をテーブルに設定する。

≌起	副メソッド情報				x
		メソッド <mark>テーブ</mark> ノ	レデータを設定する(PFObjectTab	le) 🗸] 🔲 全メソッド対象
NO	型	記 1 月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	PFObjectTable	テーブルデータ	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(3引…
					了解 取消し

動作イメージ

以下の図のように、テーブルデータから部分テーブルデータを取得するための処理手順について説明しま す。

🎒 元データ・設定データ		▲操作結果・取得データ		
品名 型番 単価 個数 出荷先 部品1 PRD101 100 2 A社 部品2 PRD103 120 2 A社 部品3 PRD103 140 4 A社 部品4 PRD103 140 4 A社 部品5 PRD104 160 4 A社 部品5 PRD105 180 2 A社 部品4 PRD104 160 4 A社 部品5 PRD103 140 5 B社 部品4 PRD102 120 5 B社 部品5 PRD103 140 5 B社 部品5 PRD103 140 5 B社 部品5 PRD104 160 4 B社 部品5 PRD102 120 2 C社 部品5 PRD103 140 2 C社 部品5 PRD104 160 5 C社 部品5 PRD102 120 2 D社 部品3 PRD103 140 2 D社 部品5 PRD104 160 1 D社 <td>設定用データ PRD999 設定用 データ(7)用) 200 240 260 280 200 220 240 260 280 220 240 220 240 220 240 200 220 240 200 220 240 200 20</td> <td><u>最名 型書 単価</u> 部最3 PRD103 140 部最4 PRD104 160 部最5 PRD105 180 部最1 PRD101 100</td> <td>取得したデータ 取得した リストデータ</td>	設定用データ PRD999 設定用 データ(7)用) 200 240 260 280 200 220 240 260 280 220 240 220 240 220 240 200 220 240 200 220 240 200 20	<u>最名 型書 単価</u> 部最3 PRD103 140 部最4 PRD104 160 部最5 PRD105 180 部最1 PRD101 100	取得したデータ 取得した リストデータ	
▲ 操作パネル				
基本操作 複合操作 帳票印刷				
アル協加・削除 行追加・削除 セルデータ取得・設定 列データ取得・設定 行データ取得・設定 列移動 行移動 部分テーブル取得 ソート 分類テーブル作成 セル値計算 列単位集計 行単位集計 部分テーブル取得 行範囲 2 5 列範囲 0 2				
<u>L</u>	21	7		

使用メソッド

テーブルデータから部分テーブルデータを取得するためには、次のコンポーネントのメソッドを順に実行します。

①選択範囲を指定する

コンポーネント	■テーブルサブセットフィルタ	
メソッド	選択対象の単一範囲を設定する(int, int, int, int)	
引数	第1引数:開始行位置	
	第2引数:終了行位置	
	第3引数:開始列位置	
	第4引数:終了列位置	
戻り値	なし	
行位置および列位置の範囲を指定して選択範囲を設定します。		

②選択範囲のテーブルデータを取得する

コンポーネント	■テーブルサブセットフィルタ
メソッド	選択データを取得する()
引数	なし
戻り値	PFObjectTable
選択範囲のテーブルデータを取得します。	

①に類似する処理を行うものとして、選択範囲の指定の仕方の違いにより次のメソッドがあります。

メソッド	選択対象列を設定する(int)	
引数	第1引数:列位置	
戻り値	なし	
列位置を指定して選択範囲を設定します。		

メソッド	選択対象列を設定する(int, int)	
引数	第1引数:開始列位置	
	第2引数:終了列位置	
戻り値	なし	
列範囲を指定して選択範囲を設定します。		

メソッド	選択対象列を設定する(PFObjectList)	
引数	第1引数:列位置のリスト	
戻り値	なし	
列位置のリスト(整数を表現する文字列のリスト、整数のリスト、連続していなくても可能)を		
指定して選択範囲を設定します。		

メソッド	全列を選択する()
引数	なし
戻り値	なし
全列を選択範囲に設定します。	

メソッド	選択対象行を設定する(int)	
引数	第1引数:行位置	
戻り値	なし	
行位置を指定して選択範囲を設定します。		

メソッド	選択対象行を設定する(int, int)	
引数	第1引数:開始行位置	
	第2引数:終了行位置	
戻り値	なし	
行範囲を指定して選択範囲を設定します。		

メソッド	選択対象行を設定する(PFObjectList)	
引数	第1引数:行位置のリスト	
戻り値	なし	
行位置のリスト(整数を表現する文字列のリスト、整数のリスト、連続していなくても可能)を		
指定して選択範囲を設定します。		

メソッド	全行を選択する()
引数	なし
戻り値	なし
全行を選択範囲に設定します。	

メソッド	列データの日時で行を選択する(int, Date, boolean, Date,
	boolean)
引数	第1引数:列位置
	第 2 引数:開始日時
	第3引数:開始日時を含むかどうか
	第4引数:終了日時
	第5引数:終了日時を含むかどうか
戻り値	なし
日付列型の位置および日時の範囲を	指定して選択範囲を設定します。

メソッド	列データの数値で行を選択する(int, Number, boolean,
	Number, boolean)
引数	第1引数:列位置
	第2引数:下限值
	第3引数:下限値を含むかどうか
	第 4 引数:上限值
	第 5 引数:上限値を含むかどうか
戻り値	なし
数値列型の位置および数値の範囲を	・ 指定して選択範囲を設定します。

メソッド	列データの正規表現で行を選択する(int, String)
引数	第1引数:列位置
	第2引数:正規表現文字列
戻り値	なし
文字列型の列の位置および正規表現	を指定して、正規表現に合致する文字列を含む行を選択範囲
に設定します。	

メソッド	列データの文字列で行を選択する(int, String)
引数	第1引数:列位置
	第2引数:文字列
戻り値	なし
文字列型の列の位置および文字列る	を指定して、一致する文字列を含む行を選択範囲に設定しま
す。	

接続例

動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された選択範囲に対して左側テーブルデータから部分 テーブルデータを取得し「テーブル」に設定する処理手順を以下のように定義します。ここで部分テーブル データ取得処理は「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に元 テーブルデータ、第2引数に開始行位置、第3引数に終了行位置、第4引数に開始列位置、第5引数に終了 列位置を指定してメソッド「ファンクションの呼び出し(5引数)」を実行すると、結果の値が戻り値として 得られるように定義しています。

■ファンクション	処理要求イベント	- 全体データを設定する	1	□ テーブルサブセットフィルタ
ID:91 KEY:"部分テーブル取得"	–	T	_	ID:92 KEY:"データ操作用"
		選択対象の単一範囲を設定する	2	
			0	KEY:"データ操作用"
		選択データを取得する	0	テーフルサフセットノイルタ D:92 ビンショー:
<mark> </mark> テーブルサブセットフィルタ D : 92 KEY : "データ操作用"				
	アクションイベント	■■■部分テーブルデータ取得■■■		
ID:93 KEY:"部分テーブル取得"		第1引数:元テーブルデータ,第2引数:開始 第4引数:開始列位書 第5引数:終了列位書	行位置,第3	33]数:終了行位置,
		良り値:テーブルデータ		
	E	 ファンクションの呼び出し(5引数) 	(4)	<u> ファンクション</u> D:91
			ß	(KEY: *部分ナーフル取得**)
		「 テーフルテータを設定する		ID:8 KEY:"操作後データ"
 数値入力カウンタ ID:94 KEY:"開始行位置" 				
 数値入力力ウンタ ID: 95 KEY: "終了行位置" 				
 数値入力カウンタ ID:96 KEY:"開始列位置" 				
 				

①の接続情報:処理対象のテーブルデータを設定する。

№_	己動メソッド情報				X
		メソッド 全体デ [、]	ータを設定する(PFObjectTable)	■ 全メソッド対象	Ř
NO	型	記印	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	PFObjectTable	全体データ	メソッド戻り値	ファンクション [ID:91] (KEY:"部分テーブル取得")	第1引数の取得
					了解 取消し

②の接続情報:選択範囲を指定する。

🔛 起動メソッド情報	R			X
	メソッド 選択対象の単	単一範囲を設定する(int,int,ir	<mark>it,int)</mark>	k
NO 型	記印	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0 int	開始行インデックス	メソッド戻り値	ファンクション [ID:91] (KEY:"部分テーブル取得")	第2引数の取得
1 int	終了行インデックス	メソッド戻り値	ファンクション [ID:91] (KEY:"部分テーブル取得")	第3引数の取得
2 int	開始列インデックス	メソッド戻り値	ファンクション [ID:91] (KEY:"部分テーブル取得")	第4引数の取得
3 int	終了列インデックス	メソッド戻り値	ファンクション [ID:91] (KEY:"部分テーブル取得")	第5引数の取得
				了解 取消し

③の接続情報:選択範囲のデータを取得し、ファンクションの戻り値として返す。

۳z	起	動メソッド情報					X
			メソッド 選択データを取得す	-30		🔹 🔲 全メソッド対象	
N	0	型	I.兑8月	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
							了解 取消し

④の接続情報:定義した部分テーブルデータ取得処理を実行する。

<mark>₩</mark> ,	起動メソッド情報				×
	メソッド	ファンクションの呼び出し(5引数)) (Object,Object,Obje	ct,Object,Object) 🔹 🗖 全	メソッド対象
NO	型	記印	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する
	1 Object	第2引数	メソッド戻り値	数値入力力ウンタ [ID:94] (KEY:"開始行位置")	数値を取得する
	2 Object	第3引数	メソッド戻り値	数値入力力ウンタ [ID:95] (KEY:"終了行位置")	数値を取得する
	3 Object	第4引数	メソッド戻り値	数値入力力ウンタ [ID:96] (KEY:"開始列位置")	数値を取得する
-	4 Object	第5引数	メソッド戻り値	数値入力力ウンタ [ID:97] (KEY:"終了列位置")	数値を取得する
					了解 取消し

⑤の接続情報:結果をテーブルに設定する。

₩₂	己動メソッド情報				×
		メソッド テーブルデータを	設定する(PFObjectTab	le) 🔹 🔹 全メソッド対象	
NO	型	説明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
(PFObjectTable	テーブルデータ	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(5引…
					了解 取消し

2.14 並べ替え(ソート、一列)

動作イメージ

以下の図のように、テーブルデータを指定列についてソートする処理手順について説明します。

					실 操作	結果・取得デ·	-9					
品名	型番	単価	個数 出荷先	設定用データ			品名	型番	単価	個数 出宿	洗	取得したデータ
部品1	PRD101	100	2 Ażt				部品1	PRD101	100	2 A¥±		
部品2	PRD102	120	2 A?±	PRD999			部品1	PRD101	100	1 日社		
部品3	PRD103	140	4 A社	設会田	設定用		部品1	PRD101	100	2 C社		町が母」 t-
部品4	PRD104	160	4 A社	一款に用	設定用 データ(行用)		部品1	PRD101	100	2 D社		
部品5	PRD105	180	2 A社) = > (Hur)	0 - ×(1)H)		部品2	PRD102	120	2 A¥±		
部品1	PRD101	100	1 日社	200 🔺	部品10		部品2	PRD102	120	5 日社		
部品2	PRD102	120	5 日社	220	PRD999		部品2	PRD102	120	2 C社		
部品3	PRD103	140	5 B社	240	150		部品2	PRD102	120	2 D社		
部品4	PRD104	160	4 日社	260	3		彩品3	PRD103	140	4 A社		
部品5	PRD105	180	3 日社	200	5		63	PRD103	140	5 日社		
部品1	PRD101	100	2 C社	280 =			品3	PRD103	140	2 C?±		
部品2	PRD102	120	2 C社	200			都品3	PRD103	140	1 D社		
部品3	PRD103	140	2 C社	220			部品4	PRD104	160	4 A¥±		
部品4	PRD104	160	5 C社	240			部品4	PRD104	160	4 日社		
部品5	PRD105	180	5 C社	260			部品4	PRD104	160	5 C社		
部品1	PRD101	100	2 D社	280			部品4	PRD104	160	1 D社		
部品2	PRD102	120	2 D社	200			部品5	PRD105	180	2 A¥±		
部品3	PRD103	140	1 D社	220			部品5	PRD105	180	3 日社		
部品4	PRD104	160	1 D社	240			部品5	PRD105	180	5 C社		
部品5	PRD105	180	2 D社	240 -			部品5	PRD105	180	2 D?±		
<u>۱</u>	\frown	/					۱	\frown)			
실 操作	パネル											
基本操	作複合操作	帳票印刷	N									
	列追加・肖邖	<u>ج</u>	(Tì	自加・削除	_	t7.1	データ取得	得・設定			列データ取得・	設定
行	データ取得・設	定	列移動 行移	 動 部分テーコ 	ジル取得	ソー	ト 分	類テーブル作	成	セル値計算	列単位集計	行単位集計
	19 - k		ii 📊 🖂 🗩 🛤	lilā								
	2-1	×19862										
-v	ート (ネ実数歹リ)] 🔽 🖡	乳川真									
	2U7											

使用メソッド

テーブルデータを指定列についてソートするために使用するコンポーネント、基本メソッドおよび設定す る引数は次のとおりです。

コンポーネント	■テーブル格納変数	
メソッド	列を指定して行をソートする(int, boolean)	
引数	第1引数:ソート列位置	
	第2引数:整列順序(true:昇順, flase:降順)	
戻り値 なし		
ソート列位置および整列順序を指定して、文字列として行を並べ替えます。		

類似する処理行うメソッドとして次のメソッドがあります。

メソッド	列を指定して日時で行をソートする(int, boolean)		
引数	第1引数:ソート列位置		
	第2引数:整列順序(true:昇順,flase:降順)		
戻り値	なし		
ソート列位置および整列順序を指定して、日時として行を並べ替えます。			

メソッド	列を指定して数値で行をソートする(int, boolean)		
引数	第1引数:ソート列位置		
	第2引数:整列順序(true:昇順, flase:降順)		
戻り値 なし			
ソート列位置および整列順序を指定して、数値として行を並べ替えます。			

接続例

動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された列位置および「チェックボックス」で指定され た整列順序に従い左側テーブルデータをソートし、その結果を右側の「テーブル」に設定する処理手順を以 下のように定義します。ここでソート処理は「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義 しています。第1引数に元テーブルデータ、第2引数にソート列位置、第3引数に整列順序を指定してメソ ッド「ファンクションの呼び出し(3引数)」を実行すると、結果の値が戻り値として得られるように定義し ています。



①の接続情報:処理対象のテーブルデータを設定する。

🛂 起動メソッド情報				×
	メソッド テーブルを設定す	중(PFObjectTable)	▼] 全メソッド対象
NO 型	記印月	取得方法	コンボーネント	メソッド/値
0 PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:101] (KEY:"ソート")	第1引数の取得
		I		
				了解 取消し
L				

②の接続情報:	ソー	ト列位置および整列順序を指定してソー	トする。
---------	----	--------------------	------

2011年1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日					×
		メソッド 列を指定して行をソートす	ත(int,boolean)		全メソッド対象
N	0 型	i兑8月	取得方法	コンボーネント	メソッド/値
	0 int	ソート位置	メソッド戻り値	ファンクション [ID:101] (KEY:"ソート")	第2引数の取得
	1 boolean	整列順序(昇順:true,降順:fals…	メソッド戻り値	ファンクション [ID:101] (KEY:"ソート")	第3引数の取得
Г					
L					
					了解 取消し

③の接続情報:ファンクションの戻り値としてテーブルデータを返す。

<mark>₩</mark> .	記動メソッド情報					×
		メソッド テーブル	を取得する()		🔹 📄 全メソッド対象	
NO	型	ii兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド	/値
						了解 取消し

④の接続情報:定義したソート処理を実行する。

№_	記動メソッド情報				X
	メソッド	ファンクションの呼び出し(3引数) (Object,Object,Obje	ct) 🗖	全メソッド対象
NO	型	説明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する
1	1 Object	第2引数	メソッド戻り値	数値入力カウンタ <mark>[ID:104] (KEY:"ソート列位置"</mark>)	数値を取得する
2	2 Object	第3引数	メソッド戻り値	チェックボックス <mark>[ID:105] (KEY:"昇順")</mark>	選択状態の有無を取得する
					了解 取消し
					了解

⑤の接続情報:結果をテーブルに設定する。

M	起動メソッド情報				×
		メソッド テーブル	/データを設定する(PFObjectTab	le) ·	▼
NO	型	記印	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 PFObjectTable	テーブルデータ	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(3引…
					了解 取消し

<u>2.15</u>並べ替え(ソート、複数列)

動作イメージ

以下の図のように、テーブルデータの複数列を対象として左側の列ほど優先的にソートする処理手順について説明します。また、列のデータ型に応じてソートに用いるメソッドを切り替えます。



使用メソッド

テーブルデータの複数列を対象として左側の列ほど優先的にソートするためには、テーブルの右側から順 にソートを実行する必要があります。また、列のデータ型によるソートメソッドの切り替えは、データ型に よる条件分岐を定義することにより実現できます。このような処理のために使用するコンポーネント、基本 メソッドおよび設定する引数は次のとおりです。

①テーブルデータの列について繰り返し処理を実行する

コンポーネント	■繰り返し処理(FOR)	
メソッド	繰り返し処理を実行する(int, boolean, int, boolean, int)	
引数	第1引数:開始值	
	第2引数:開始値を含めるかどうか	
	第3引数:終了値	
	第4引数:終了値を含めるかどうか	
	第 5 引数:増減値	
戻り値	なし	
テーブルデータの列について繰り返し処理を実行します。		

②ソートを実行する:数値型、日付型以外の場合

コンポーネント	■テーブル格納変数		
メソッド	列を指定して行をソートする(int, boolean)		
引数	第1引数:ソート列位置		
	第2引数:整列順序(true:昇順,flase:降順)		
戻り値 なし			
ソート列位置および整列順序を指定して、文字列として行を並べ替えます。			

日付型の場合

メソッド	列を指定して日時で行をソートする(int, boolean)	
引数	第1引数:ソート列位置	
	第2引数:整列順序(true:昇順, flase:降順)	
えり値 なし		
ソート列位置および整列順序を指定して、日時として行を並べ替えます。		

数値型(本章では整数(BigInteger)、実数(BigDecimal))の場合

メソッド	列を指定して数値で行をソートする(int, boolean)					
引数	第1引数:ソート列位置					
	第2引数:整列順序(true:昇順, flase:降順)					
戻り値	なし					
ソート列位置および整列順序を指定して、数値として行を並べ替えます。						

②列型の判定

コンポーネント	■テーブル格納変数
メソッド	列型を位置指定で取得する(int)
引数	第1引数:列位置
戻り値	Class
指定列のデータ型を取得します。	

コンポーネント	■ユーティリティ起動
メソッド	クラスからクラス名取得(Class)
引数	第1引数: クラス
戻り値	String
データ型からデータ型名(文字列)	を取得します。

コンポーネント	■オブジェクト分岐			
メソッド	オブジェクトの一致判定を実行する(Object)			
引数	第1引数:オブジェクト			
戻り値	なし			
オブジェクト(文字列も可)の一致判定により条件分岐を行います。				

③分岐条件の定義

コンポーネント	■オブジェクト分岐
メソッド	条件分岐用テーブルを初期化する()
引数	なし
戻り値	なし
分岐条件を初期化します。	

メソッド	条件分岐用テーブルに条件を追加する(int, Object)		
引数	第1引数:条件が一致した際に発生する処理完了イベントの		
	イベント番号		
	第2引数:一致判定に用いるオブジェクト(文字列も可)		
戻り値	なし		
分岐条件を追加します。			

接続例

動作イメージのように、「チェックボックス」で指定された整列順序に従い左側テーブルデータをソートし、 その結果を右側の「テーブル」に設定する処理手順を以下のように定義します。ここでソート処理は「ファ ンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に元テーブルデータ、第2引 数に整列順序を指定してメソッド「ファンクションの呼び出し(2引数)」を実行すると、結果の値が戻り値 として得られるように定義しています。



<u>■</u> サブルーチン	アクションイベント	- 条件分岐用テーブルを初期化する	(1)	▋オブジェクト分岐
ID:111 KEY:"分岐条件設定"				┃D:110 KEY:"オブジェクト分岐110"
		整数型(BigInteger)の場合、イベント番号1が発	生	
		条件分岐用テーブルに条件を追加する(最後)	<u>₹)</u> 12	▲オブジェクト分岐
				ID11110 KEY: "オブジェクト分岐110"
		実数型(BigDecimal)の場合、イベント番号1が多	鉎	
		条件分岐用テーブルに条件を追加する(最後)	<u>€)</u> (13)	ID:110 ID:110 ID:10 ID:
				KEY:"オブジェクト分岐110"
		日付型(Date)の場合、イベント番号2が発生		
		条件分岐用テーブルに条件を追加する(最後)	<u>₹)</u> (14)	■オブジェクト分岐 ID:110
				KEY: オブジェクト分岐110"
 ユーティリティ起動 ID:112 KEY:"ユーティリティ起動112" 				
 テーブル格納変数 ID:113 KEY:"データ操作用" 				
■ ボタン ID:114	アクションイベント	■■■亜ヘ智え(ワート、複数列リ ■■■ 第1引数:元テーブルデータ、第2引数:整列順	ネ (昇順t)	rue、隆嵋false)
KEY:"ワート(複数列)"		戻り値:テーブルデータ		
	E	ファンクションの呼び出し(2引数)	(15)	ファンクション
		ŕ		ID : 108 KEY : "複数列ソート"
		テーブルデータを設定する	16	<u> </u>
				ID:8 KEY:"操作後データ"
☐ チェックボックス				
ID : 115 KEY : "昇順"				

①の接続情報:分岐条件を設定する。

₩₂	記動メソッド情報								×
			メソッド 処理を呼び	び出す()		🔹 🔳 全メソッド対象	\$		
NO	型	i.兑8月	取	7得方法	コンポーネン	ŀ	:	メソッド/値	
								了解	取消し

②の接続情報:処理対象のテーブルデータを設定する。

🖖 起動メソッド情報				×
	ノッド対象			
NO 型	ii 兌印月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0 PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:108] (KEY:"複数列ソート")	第1引数の取得
				了解 取消し

③の接続情報:列について繰り返し処理を実行する。

№」	は動メソッド情報				X
		メソッド 繰り返し処理を実行	する(int,boolean,int,bo	olean,int) 📃 🚽 🗌 全メソッド対象	
NO	型	記印	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	int	開始値	メソッド戻り値	テーブル格納変数 [ID:113] (KEY:"データ操作用")	最終列の位置を取得する
1	boolean	開始値を含めるかどうか	固定値	-	true
2	int	終了値	固定値	-	0
3	boolean	終了値を含めるかどうか	固定値	-	true
4	int	増減値	固定値	-	-1
					了解 取消し

④の接続情報:ファンクションの戻り値としてテーブルデータを返す。

Mz	起動メソッド情報					×
		メソッド テーブルを取得する()			📕 🗖 全メソッド	"対象
NC	型	説明	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
						了解 取消し

⑤の接続情報:列のデータ型を取得する。

<mark>₩</mark> .	記動メソッド情報				X	
メソッド 列型を位置指定で取得する(int)						
NO	型	說明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値	
(0 int	指定位置	メソッド戻り値	繰り返し制御(FOR) [ID:109] (KEY:"繰り返し制御(FOR	現在値を取得する	
					了解 取消し	

⑥の接続情報:クラス(データ型)からクラス名の文字列に変換する。

🔛 起動メソッド情報				×
	メソッド	クラスからのクラス名取得(Clas	is) 🔹 🔽 全メソッド	対象
NO 型	記名日月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0 Class	データ型	メソッド処理結果	-	列型を位置指定で取得する (テーブ
				了解 取消し

⑦の接続情報:クラス名で条件分岐を行う。

₩_ 走	己動メソッド情報					X
		メソッド オブジェクトの一致	判定を実行する(Object)		▼ ■ 全メソッ	"対象
NO	型	i兑 ⁰ 月	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
0	Object	判定するオブジェクト	メソッド処理結果	-		クラスからのクラス名取得 (ユーテ
						了解 取消し

⑧の接続情報:数値型の場合、数値型としてソートを実行する。

₩_ #	記動メソッド情報				×
	×	ソッド 列を指定して数値で行をソー	-トする(int,boolean)	▼ 2メソッ	"対象
NO	型	記印	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
(0 int	ソート位置	メソッド戻り値	繰り返し制御(FOR) [ID:109] (KEY:"繰り返し制御(FOR	現在値を取得する
	1 boolean	整列順序(昇順:true,降順:fals…	メソッド戻り値	ファンクション [ID:108] (KEY:"複数列ソート")	第2引数の取得
					了解 取消し

⑨の接続情報:日付型の場合、日付型としてソートを実行する。

<u>™</u> ;	記動メソッド情報				X
	×	ソッド 列を指定して日時で行をソー	-トする(int,boolean)	▼ 2メソッ	《対象
NO	型	i兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 int	ソート位置	メソッド戻り値	繰り返し制御(FOR) [ID:109] (KEY:"繰り返し制御(FOR	現在値を取得する
	1 boolean	整列順序(昇順:true,降順:fals…	メソッド戻り値	ファンクション [ID:108] (KEY:"複数列ソート")	第2引数の取得
					了解取消し

⑩の接続情報:その他の場合は文字列型としてソートを実行する。

M	起動メソッド情報				X
	:	メソッド 列を指定して行をソートする	5(int,boolean)	▼ 2メソッ	ド対象
NO	型	記旧月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 int	ソート位置	メソッド戻り値	繰り返し制御(FOR) [ID:109] (KEY:"繰り返し制御(FOR	…現在値を取得する
	1 boolean	整列順序(昇順:true,降順:fals…	メソッド戻り値	ファンクション [ID:108] (KEY:"複数列ソート")	第2引数の取得
					了解 取消し

⑪の接続情報:分岐条件を初期化する。

₩2	起動メソッド情報					X
		メソッド 条件分岐	8用テーブルを初期化する()		▲ 全メソッ	ド対象
NO	型	記 月	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
						了解 取消し

12の接続情報:分岐条件を追加する(整数型の場合)。

₩_ 走	己動メソッド情報					×
	>	マソッド 条件分岐用テーブルに条件	▼ ■ 全メソッ	ド対象		
NO	型	記旧月	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
0	Dint	条件に対するイベント番号	固定値	-		1
1	1 Object	一致判定に用いるオブジェクト	固定値	-		BigInteger
						了解 取消し

13の接続情報:分岐条件を追加する(実数型の場合)。

₩_ 走	己動メソッド情報				×
	>	マソッド 条件分岐用テーブルに条件	int,Object)	■ ▼	
NO	型	記名	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	int	条件に対するイベント番号	固定値	-	1
1	Object	一致判定に用いるオブジェクト	固定値	-	BigDecimal
				· ·	
					了解 取消し

⑭の接続情報:分岐条件を追加する(日付型の場合)。

<mark>™</mark> 2 i	起動メソッド情報					X
	×	▼ ■全メソット	"対象			
NO	型	i兑8月	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
	0 int	条件に対するイベント番号	固定値	-		2
	1 Object	一致判定に用いるオブジェクト	固定値	-		Date
						了解 取消し

⑮の接続情報:定義したソート処理を実行する。

Мz	起動メソッド情報				×
	メソッド [ファンクションの呼び出し(2引数)	(Object,Object)		全メソッド対象
NC) 型	記 月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する
	1 Object	第2引数	メソッド戻り値	チェックボックス [ID:115] (KEY:"昇順")	選択状態の有無を取得する
					了解 取消し

16の接続情報:結果をテーブルに設定する。

₩2	起動メソッド情報					X
		メソッド テーブル	レデータを設定する(PFObjectTab	le)	📕 🚽 🗌 全メソッド対象	
NO	型	記 兑8月	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
	0 PFObjectTable	テーブルデータ	メソッド処理結果	-		ファンクションの呼び出し(2引…
						了解 取消し
						了解 取消

動作イメージ

以下の図のように、テーブルデータから列指定(行方向の項目にする列、列方向の項目にする列、セル値 にする列)の情報に基づいて分類テーブルを生成する処理手順について説明します。

		- 0 X						
田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	C社 D社 方向 2 2 4 5 1 3 5 2 2 1 2 1 5 2 2 1 3 5 2 2 1 5 2 2 1 5 2 2 1 5 2 2 1 5 2 2 1 5 2 2 1 5 2 2 1 5 2 2 1 5 1 5	取得したデータ 取得した リストデータ						
▲ 操作パネル								
アル自加・削除 行追加・削除 セルデータ取得・設定 列データ取得・設定 行データ取得・設定 列移動 行移動 部分テーブル取得 ソート 分類テーブル作成 セル値計算 列単位集計 行単位集計 分類テーブル作成 行方向列 0 列方向列 4 セル値列 3 ●								
לטד								

使用メソッド

テーブルデータから列指定(行方向の項目にする列、列方向の項目にする列、セル値にする列)の情報に 基づいて分類テーブルを生成するために使用するコンポーネント、基本メソッドおよび設定する引数は次の とおりです。

コンポーネント	■グラフデータ作成(複合コンポーネント)			
メソッド	系列グラフテーブル作成(Object, Object, Object, Object)			
引数	第1引数:元テーブルデータ			
	第2引数:行方向の列名または列位置			
	第3引数:列方向の列名または列位置			
	第4引数:セル値の列名または列位置			
戻り値	PFObjectTable			
列情報を指定して、分類されたテーブルを生成します。				

接続例

動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された列情報(行方向の列位置、列方向の列位置、集 計対象の列位置)に従い左側テーブルデータから分類テーブルを生成し、その結果を右側の「テーブル」に 設定する処理手順を以下のように定義します。ここで分類テーブル生成処理は「ファンクション」コンポー ネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に元テーブルデータ、第2引数に行方向の列位置、 第3引数:列方向の列位置、第4引数:集計対象の列位置を指定してメソッド「ファンクションの呼び出し (4引数)」を実行すると、結果の値が戻り値として得られるように定義しています。

ファンクション	処理要求イベント	系列グラフテーブル作成	1	グラフデータ作成
ID : 116 KEY : "分類テーブル作成"				ID:117 KEY:"グラフデータ作成"
■ グラフデータ作成				
ID : 117 KEY · "グラフデータ作成"				
ゴ ボタン	アクションイベント	■■■分類テーブル作成■■■		
ID : 118 KEY : "分類テーブル作成"		第15日数:元テーブルデータ,第25日数:行方 第32日数・利ち向の利名またけ利位置。第42日	句の列名ま) 跡・わし値/	たは列位置。 の列をまたけ列位置
		戻り値:テーブルデータ	a. chrie	
		ファンクションの呼び出し(4引数)	2	ファンクション
				ID:116 KEY:"分類テーブル作成"
		テーブルデータを設定する	3	□ テーブル
				ID:8 KEY:"操作後データ"
一数値入力カウンタ				
ID:119 KEY:"行方向列"				
一数値入力カウンタ				
ID:120 KEY:"列方向列"				
一数値入力カウンタ				
ID:121 KEY:"集計列"				

①の接続情報:列情報を指定し、分類テーブルを生成する。

🛂 起動メソッド情報				×			
	メソッド 系列グラフテーブル	╱作5苋(Object,Object,Object,Object)	•			
NO 型	i兑 ^B 月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値			
0 Object		メソッド戻り値	ファンクション [ID:116] (KEY:"分類テーブル作成")	第1引数の取得			
1 Object		メソッド戻り値	ファンクション [ID:116] (KEY:"分類テーブル作成")	第2引数の取得			
2 Object		メソッド戻り値	ファンクション [ID:116] (KEY:"分類テーブル作成")	第3引数の取得			
3 Object		メソッド戻り値	ファンクション [ID:116] (KEY:"分類テーブル作成")	第4引数の取得			
了解 取消し							

②の接続情報:定義した分類テーブル生成処理を実行する。

₩2;	起動メソッド情報				×			
メソッド ファンクションの呼び出し(4引数)(Object,Object,Object,Object)								
NO	型	記 兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値			
	0 Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する			
	1 Object	第2引数	メソッド戻り値	数値入力カウンタ <mark>[ID:119] (KEY:"行方向列")</mark>	数値を取得する			
	2 Object	第3引数	メソッド戻り値	数値入力カウンタ <mark>[ID:120] (KEY:"列方向列")</mark>	数値を取得する			
	3 Object	第4引数	メソッド戻り値	数値入力力ウンタ [ID:121] (KEY:"集計列")	数値を取得する			
	了解 取消し							

③の接続情報:結果をテーブルに設定する。

₩2 #	己動メソッド情報				×
		メソッド テーブルデータを 話	设定する(PFObjectTab	le)	
NO	型	記日月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
(PFObjectTable	テーブルデータ	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(4引…
					了解 取消し

<u>2.17</u>セル値を用いた計算

動作イメージ

以下の図のように、テーブルデータのセルの値を用いて計算を行う処理手順について説明します。

🍝 元デ	ータ・設定デー	-9				실 操作結	課・取得テ				
品名	型番	単価	個数 出荷先	設定用データ		品名	型番	単価	個数出	荷先	取得したデータ
部品1	PRD101	100	2 Azt				I.				
部品2	PRD102	120	2 Ait	PRD999							240
部品3	PRD103	140	4 Art	診会田	設立田						町/島」 t-
部品4	PRD104	160	4 A社	一款に用	設定用 データ(行用)						4019-072
部品5	PRD105	180	2 A社	(העיט) כי - כ	(mr.) <- C						
部品1	PRD101	100	1 日社	200 🔺	部品10						
部品2	PRD102	120	5 日社	220	PRD999						
部品3	PRD103	140	5 日社	240	150						
部品4	PRD104	160	4 日社	260	3						
部品5	PRD105	180	3 日社	280	E2+						
部品1	PRD101	100	2 C?±	200							
部品2	PRD102	120	2 C7±	200							
###B3	PRD103	140	2 C7±	220							
	PRD104	160	5 C71	240							
	PRD105	180	5 C71	260							
	PRD 101	100	2 DfI	280							
	PRD102	120	2 DfI 1 D51	200							
	PRD 103	140		220							
	PPD105	100	2 D2+	240							
62003	FRD105	100	ZUTL	260							
▲ 握作	パネル										
	/h										
基本探	作複合操作	帳票印刷	刮								
	列追加・削	除	行注	追加・削除	t	zルデータ取得	・設定			列データ取得・	設定
ŕī	データ取得・	設定	列移動 行利		ブル取得 ソ	-ト 分類	頁テーブル 作	海市	セル値計算	列単位集計	行単位集計
+	山値を用いた	計管		*日 - 夜~送作人 - 2年4	古要 <u>1 ▲ 30</u> 4						
	ливанича	미무	IV(Z3CR(A,D)								
				変数日 行住	超 1 🗧 列化	远置 3 🌲					
					ク!	17					

使用メソッド

テーブルデータのセルの値を用いて計算を行うためには、次のコンポーネントのメソッドを使用します。

①セルの値を取得する

コンポーネント	■テーブル格納変数			
メソッド	セルデータを位置指定で取得する(int, int)			
引数	第1引数:行位置			
	第2引数:列位置			
戻り値	Object			
行位置および列位置を指定してセルデータを取得します。				

②計算式の文字列を生成する

・計算式(例 A*B)を設定する

コンポーネント	■文字列格納変数			
メソッド	文字列を設定する(String)			
引数	第1引数:文字列			
戻り値	なし			
文字列(変数を含む計算式を表現する文字列)を設定します。				

・変数を数値で置き換える(代入)

メソッド	指定文字列と一致する最初の文字列を置換する(String,			
	String)			
引数	第1引数:置換前の文字列			
	第2引数:置換後の文字列			
戻り値	なし			
文字列を置き換えます(変数に数値を代入した計算式を表現する文字列を生成する)。				

③計算式を設定し実行する

コンポーネント	■関数電卓		
メソッド	計算式を設定する(String)		
引数	第1引数:計算式をあらわす文字列		
戻り値 なし			
計算に当たり計算式をあらかじめ文字列で設定します。			

メソッド	計算を実行する()
引数	なし
戻り値	BigDecimal(数值)
計算を実行します。	



動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された位置のセルの値を左側テーブルデータから取得 し、「テキストフィールド」で指定された計算式で計算を行った結果を「テキストフィールド」に設定する処 理手順を以下のように定義します。ここでセル値の計算処理は「ファンクション」コンポーネントの処理要 求イベントに定義しています。第1引数に元テーブルデータ、第2引数に式(2変数 A,B)の文字列、第3 引数に第1変数 A の値を取得する行位置、第4引数に第1変数 A の値を取得する列位置、第5引数に第2 変数 B の値を取得する行位置、第6引数に第2変数 B の値を取得する列位置を指定してメソッド「ファンク ションの呼び出し(6引数)」を実行すると、結果の値が戻り値として得られるように定義しています。

<u> </u>	処理要求イベント	- テーブルを設定する	1	- テーブル格納変数
ID : 126 KEY : "セル値を用いた計算(2変"				ID : 127 KEY : "データ操作用"
		計算式(2変数A,B)を設定		
		文字列を設定する(イベント発生なし)	2	■ 文字列格納変数 ID:128
				KEY:"計算式"
		指定列のセルの値を取得する(Aの値として) (「セールデータ取得」ファンクションを呼ばず,	直接実行)	
		セルデータを位置指定で取得する	3	テーブル格納変数
				ID:127 KEY:"データ操作用"
		Aをセルの値に置き換える	(4)	
		指定文字列と一致する最初の文字列を置換す	する	■ 文子列格納変数 ID:128
		地定剤のわれの値を取得する個の値をしてい		(KEY:"計算式"
		指定列のセルの値を取得する(Bの値として) (「セールデータ取得」ファンクションを呼ばず,	直接実行)	
		セルデータを位置指定で取得する	(5)	■ テーブル格納変数
				ID : 127 KEY : "データ操作用"
		Bをセルの値に置き換える	6	
		指定文字列と一致する最初の文字列を置換す	する	■ 文字列格納変数 ID:128
				(KEY:"計算式"
			\underline{w}	
			0	
			0	
 	アクションイベント	■■■セルデータを用いた計算を実行■■■ 第13日数:元テーブルデータ,第23日数:式(23 第33日数:第1変数Aの値を取得する行位置,第4 第55日数:第2変数Bの値を取得する行位置,第6 戻り値:計算値	変数A,B), 댕 数:第1 댕 数:第2	変数Aの値を取得する列位置。 変数Bの値を取得する列位置,
	[ファンクションの呼び出し(6引数)	9	□ファンクション ID:126
			~	KEY:1"セル値を用いた計算(2変"
		テキストを設定する	(10)	■] テキストフィールド ID:9
テキストフィールド ID:131 KEY: "式" 数値入力力ウンタ ID:132 KEY: "変数Aの行位置" 数値入力力ウンタ ID:133 KEY: "変数Aの列位置" ●数値入力力ウンタ ID:133 KEY: "変数Aの列位置" ●数値入力力ウンタ ID:134 KEY: "変数Aの列位置" ●数値入力力ウンタ ID:134 KEY: "変数Bの行位置" ●数値入力カウンタ				
ID:135 KEY:"変数Bの列位置"				

①の接続情報:処理対象のテーブルデータを設定する。

₩2,	記動メソッド情報				X
		メソッド テーブルを設定す	중(PFObjectTable)	▼ 2メソッ	ド対象
NO	型	記 兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:126] (KEY:"セル値を用いた計算(2.	. 第1引数の取得
					了解 取消し

②の接続情報:計算式(変数 A,B を含む)を表現する文字列を設定する。

M₂ i	起動メソッド情報						3
		メソッド 文字列を設定する(イベ	:ント発生なし)(String)		🔲 全メソッド対象		
NO	型	記印	取得方法	コンポーネント	メソ	リッド/値	
	0 String		メソッド戻り値	ファンクション [ID:126] (KEY:"セル値	を用いた計算 <mark>(2…</mark> 第23	引数の取得	
						了解 取消し	

③の接続情報:テーブルからセルの値を取得する。

<mark>₩</mark> . ‡	記動メソッド情報				X
	:	メソッド セルデータを位置指定で取	得する(int,int)	▼ 2メソッ	ド対象
NO	型	i兑0月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
(int	指定行	メソッド戻り値	ファンクション [ID:126] (KEY:"セル値を用いた計算(2	第3引数の取得
1	l int	指定列	メソッド戻り値	ファンクション [ID:126] (KEY:"セル値を用いた計算(2	第4引数の取得
					了解取消し

④の接続情報:文字列を置換し変数に値を代入した式を表現する文字列を生成する。

№₫	己動メソッド情報					×
		メソッド 指定文字列と一致する)	最初の文字列を置換す	ය (String, String)	🔹 🔳 全メソッド対象	2
NO	型	説明	取得方法	コンボーネント		メソッド/値
0	String	置換前の文字列	固定値	-		A
1	String	置換後の文字列	メソッド処理結果	-		セルデータを位置指定で取得する (…
						了解 取消し

⑤の接続情報:テーブルからセルの値を取得する。

型趙	己動メソッド情報				X
		メソッド セルデータを位置指定で取	双得する(int,int)	▼ 2メソッ	*対象
NO	型	i兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	int	指定行	メソッド戻り値	ファンクション [ID:126] (KEY:"セル値を用いた計算(2	第5引数の取得
1	l int	指定列	メソッド戻り値	ファンクション [ID:126] (KEY:"セル値を用いた計算(2	第6引数の取得
					了解 取消し

⑥の接続情報:文字列を置換し変数に値を代入した式を表現する文字列を生成する。

₩2 #	記動メソッド情報					x
		メソッド 指定文字列と一致する	最初の文字列を置換す	ය (String, String)	- 全メソッド対象	2
NO	型	説明	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
() String	置換前の文字列	固定値	-		В
	1 String	置換後の文字列	メソッド処理結果	-		セルデータを位置指定で取得する (…
						了解 取消し

⑦の接続情報:計算に当たり計算式を設定する。

₩_ 苊	記動メソッド情報				×
		メソッド 計算式を設定する((String)	▼ 2 全	メソッド対象
NO	型	記印	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	String	計算式を示す文字列	メソッド戻り値	文字列格納変数 [ID:128] (KEY:"計算式")	文字列を取得する
					了解 取消し
<u> </u>					

⑧の接続情報:計算を実行し、ファンクションの戻り値として返す。

型起	国動メソッド情報			×
	メソット	- 計算を実行する()	•	🗌 全メソッド対象
NO	型 説明	取得方法	コンボーネント	メソッド/値
				了解 取消し

⑨の接続情報:定義したセル値計算処理を実行する

₩ お助くいい ド情報

<u>₩</u>	記動メソッド情報				×
	メソッド	ファンクションの呼び出し(6引数) (Object,Object,Obje	ct,Object,Object,Object) 🔹 🗖 全	ミメソッド対象
NO	型	說明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する
	1 Object	第2引数	メソッド戻り値	テキストフィールド [ID:131] (KEY:"式")	テキストを取得する
:	2 Object	第3引数	メソッド戻り値	数値入力カウンタ [ID:132] (KEY:"変数Aの行位置")	数値を取得する
	3 Object	第4引数	メソッド戻り値	数値入力カウンタ [ID:133] (KEY:"変数Aの列位置")	数値を取得する
-	4 Object	第5引数	メソッド戻り値	数値入力カウンタ [ID:134] (KEY:"変数Bの行位置")	数値を取得する
	5 Object	第6引数	メソッド戻り値	数値入力カウンタ <mark>[ID:135] (KEY:"変数Bの列位置")</mark>	数値を取得する
					了解 取消し

⑩の接続情報:結果をテキストフィールドに設定する。

₩2 #	記動メソッド情報				X
		メソッド <mark>テキ</mark> ス	ストを設定する(String)	▼ 🗋 全メソッド対象	
NO	型	言兑 8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
(String	テキスト	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(6引…
					了解 取消し

<u>2.18</u>列単位の集計



以下の図のように、テーブルデータのデータを指定列について集計する処理手順について説明します。

🍐 元デ	ータ・設定デー	-9	_		- 0 X	4	操作結果	見・取得ラ	データ				
品名	型番	単価	個數 出荷先	設定用データ	,	6	品	型番	単価	個数	出荷先		取得したデータ
部品1	PRD101	100	2 Ait		·								
部品2	PRD102	120	2 Ait	PRD999									56
部品3	PRD103	140	4 Ait	設守田	診守田								100/月1 t-
部品4	PRD104	160	4 Ait	一 一 設定用	設定用 データ(行用)								117 トデータ
部品5	PRD105	180	2 Ait										
部品1	PRD101	100	1 B ±	200 🔺	部品10								
部品2	PRD102	120	5 B ±	220	PRD999								
部品3	PRD103	140	5 B ±	240	150								
部品4	PRD104	160	4 B ±	260	3								
部品5	PRD105	180	3 B ±	280	E\$t		•						
部品1	PRD101	100	2 C ±	200									
部品2	PRD102	120	2 C ±	200		r							
部品3 #2日	PRD103	140	201	- 220									
	PRD104	160	501	240									
6P000	PRD105	180	501	260	8								
	PRD101	100	201	280									
	PRD 102	140	201 104	_ 200									
	PRD 103	160	101	220									
	PRD104	100	204	240									
-PODJ	FRD 105		201										
실 操作	パネル												
基本操	作 複合操作	帳画印	81										
	万旧倉市の・晋川	R¢	27	ietn · 首北全		セルデー	- 句 即 得・	· 設定			201-	"二々取得・≣	* ±
17	デーク取得・副	Par Ar	別移動 行	総計 파상구드	ゴル取得しい		고 1시 년 (小和)	 テーブル/	/rest	+211.(債量	+宮 歹	単位集計	*/C 行甾位集計
	्र ्रम्यान् । व	XAE	21/12/19/10				刀大貝	5-570	FNX	오기기면8	·# /	2-4-12E34001	口手拉未可
列	単位の集計	列位置	3 🌩										
					ク	リア							

使用メソッド

テーブルデータを指定列について集計するため、次のコンポーネントのメソッドを使用します。

①集計対象の列のデータを取得する

コンポーネント	■テーブル格納変数			
メソッド	列データリストを位置指定で取得する(int)			
引数	第1引数:列位置			
戻り値	PFObjectList			
列位置を指定して列データ(リスト)を取得します。非数値データは無視されます。				

②リストデータを集計する

・集計対象データを設定する

コンポーネント	■基本統計処理(数値)			
メソッド	集計対象データを設定する(PFObjectList)			
引数	第1引数:リストデータ			
戻り値	なし			
集計対象データをリストとして設定します。				

・合計値(和)を取得する

メソッド	和を取得する()		
引数	なし		
戻り値	BigDecimal(数値)		
和を計算します。			

類似する処理行うメソッドとして次のメソッドがあります。

メソッド	中央値を取得する()
引数	なし
戻り値	BigDecimal(数值)
中央値を 計算します 。	

メソッド	分散値を取得する()		
引数	なし		
戻り値	BigDecimal(数值)		
分散値を計算します。			

メソッド	平均値を取得する()		
引数	なし		
戻り値	BigDecimal(数値)		
平均値を計算します。			

メソッド	平方和(二乗和)を取得する()
引数	なし
戻り値	BigDecimal(数值)
平方和(二乗和)を 計算します 。	

メソッド	最大値を取得する()			
引数	なし			
戻り値	BigDecimal(数値)			
最大値を 計算します 。				

メソッド	最小値を取得する()
引数	なし
戻り値	BigDecimal(数値)
最小値を 計算します 。	

メソッド	最頻値を取得する()		
引数	なし		
戻り値	BigDecimal(数値)		
最頻値を計算します。			

メソッド	標準偏差を取得する()		
引数	なし		
戻り値	BigDecimal(数値)		
標準偏差を計算します。			

接続例

動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された列位置のデータについて集計を行い、その結果 を右側の「テキストフィールド」に設定する処理手順を以下のように定義します。ここで列単位集計処理は 「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に元テーブルデータ、 第2引数に集計対象の列位置を指定してメソッド「ファンクションの呼び出し(2引数)」を実行すると、結 果の値が戻り値として得られるように定義しています。

ファンクション	処理要求イベント	- テーブルを設定する	1	■ テーブル格納変数
D:144 KEY:"列単位の集計"		<u> </u>		ID:145 KEY:"データ操作用"
		指定列の値をリストとして取得する		
		<u>(「列データ取得」ファンクションを呼ばず,i</u>	直接実行)	
		列データリストを位置指定で取得す	<u>s (2)</u>	
				KEY:"データ操作用"
		リストに設定されている値の和を計算する	_	
		集計対象データを設定する	3	■基本統計処理(数値) □D:148
				ID.140 KEY:"集計用"
		和を取得する	(4)	■基本統計処理(数値)
				ID:146 KEY:"集計用"
 ラーブル格納変数 D:145 KEY:"データ操作用" 基本統計処理(数値) D:146 KEY:"集計用" 				
ボタン	アクションイベント	■■■列単位の集計を実行■■■]
ID:147 KEY:"列単位の集計"		第15 数:元テーブルデータ,第25 数:集調 戻り値 : 集計値	†対象の列位置	
	F	 - ファンクションの呼び出し(2引数	5	ファンクション
	E			ID:144 KEY:"列単位の集計"
		テキストを設定する	6	<u> </u> テキストフィールド
				ID:9 KEY:"取得したセルデータ"
■ 数値入力力ウンタ ID : 148 KEY : "別位置"				

①の接続情報:処理対象のテーブルデータを設定する。

🛂 起動メソッド情報				X
メソッド テーブルを設定する(PFObjectTable) 🔹 📄 全メソッド対象				
NO 型	說明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0 PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:144] (KEY:"列単位の集計")	第1引数の取得
				了解 取消し
L				

②の接続情報:集計対象の列のデータを取得する。

₩ 起	副メソッド情報						×
メソッド 列データリストを位置指定で取得する(int) 🔹 📄 全メソッド対象						対象	
NO	꼬 했다	明	取得方法	コンポーネント		メソッド/値	
0	int 指知	E位置 :	メソッド戻り値	ファンクション [ID:144] (KEY:"列単位の	の集計")	第2引数の取得	
	· · · ·			·			
						了解	取消し

③の接続情報:集計対象データを設定する。

🛂 起動メソッド情報				×	
メソッド 集計対象データを設定する(PFObjectList) 🔻 🖻 全メソッド対象					
NO 型	ii 兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値	
0 PFObjectList	集計対象データ	メソッド処理結果	-	列データリストを位置指定で取得…	
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
				了解 取消し	

④の接続情報:和を計算し、ファンクションの戻り値として返す。

M_ #	起動メソッド情報				X	
メソッド 和を取得する() 🔹 🗖 全メソッド対象						
NO	型		取得方法	コンポーネント	メソッド/値	

⑤の接続情報:定義した列単位の集計処理を実行する。

🌄 走	己動メソッド情報				×
	メソッド [•] 全メソッド対象		
NO	型	記印	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する
1	Object	第2引数	メソッド戻り値	数値入力力ウンタ [ID:148] (KEY:"列位置")	数値を取得する
					了解 取消し

⑥の接続情報:結果をテキストフィールドに設定する。

≝₫	己動メソッド情報				×		
	メソッド <mark>テキストを設定する(String)</mark> 🚽 全メソッド対象						
NO	型	記印	取得方法	コンポーネント	メソッド/値		
0	String	テキスト	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(2引…		
					了解 取消し		
					了解		
<u>2.19 行単位の集計</u>



以下の図のように、テーブルデータのデータを指定行について集計する処理手順について説明します。

🏄 元デ	ータ・設定デー	-9					x	<u></u>	峰作結果・	取得ラ	データ				- 0 X
品名	型番	単価	個数 出荷先	:	定用デー	· タ			名 🖪	日本	単価	個数	出荷先	Ē	取得したデータ
部	PRD101	100	2 42+			-									
部品2	PRD102	120	2 Aż±		PRD999										122
8Poo 3	PRD 103	140	4 Atl		完田	設定田									取得した
部品4	PRD104	160	4 A?±		、 一々 の 明	目) データ(i	テ用)								リストデータ
部品5	PRD105	180	2 A7±	_											
部品1	PRD101	100	1 BR±	_	200	▲ 郡品10)								
apan2	PRD102	120	5 871		220	PRD9	99								
	PRD103	140	5 841	_	240	150									
	PRD104	160	4 BFI	_	260	3									
	PRD 105	180	3 BFI	_	280	= E社		\rightarrow							
	PRD102	120	2 C11	-	200										
프로 공	PRD103	1/0	2 C2+	_	220										
部品4	PRD104	160	5 C2+	-	240										
部品5	PRD105	180	5 C*t	-	260										
部品1	PRD101	100	2 D2+	-	200										
部品2	PRD102	120	2 D?t		200										
部品3	PRD103	140	1 D?†		200										
部品4	PRD104	160	1 D?±		220										
部品5	PRD105	180	2 D?±		240	-									
				I,	060										
실 操作	パネル														- 0 X
基本操	作 複合操作	帳票印刷	ii)												
	列追加・削	除	Î	テ追加・削	除		tz	ルデータ	取得・影	淀			Þ	リデータ取得・誘	定
行	データ取得・	設定	列移動 谷	移動	部分テ・	- ブル取得	- y-	- 1-	分類テー	-ブル	作成	セル値計	1算	列単位集計	行単位集計
行単位の集計 行位置 1															
							クリ	7							

使用メソッド

テーブルデータを指定列について集計するため、次のコンポーネントのメソッドを使用します。

①集計対象の列のデータを取得する

コンポーネント	■テーブル格納変数		
メソッド	行データリストを位置指定で取得する(int)		
引数	第1引数:行位置		
戻り値	PFObjectList		
行位置を指定して行データ(リスト)を取得します。			

②リストデータを集計する

・集計対象データを設定する

コンポーネント	■基本統計処理(数値)	
メソッド	集計対象データを設定する(PFObjectList)	
引数	第1引数:リストデータ	
戻り値	なし	
集計対象データをリストとして設定します。非数値データは無視されます。		

・合計値(和)を取得する

メソッド	和を取得する()
引数	なし
戻り値	BigDecimal(数値)
和を計算します。	

類似する処理行うメソッドとして次のメソッドがあります。

メソッド	中央値を取得する()
引数	なし
戻り値	BigDecimal(数値)
中央値を 計算します 。	

メソッド	分散値を取得する()
引数	なし
戻り値	BigDecimal(数值)
分散値を計算します。	

メソッド	平均値を取得する()
引数	なし
戻り値	BigDecimal(数値)
平均値を計算します。	

メソッド	平方和(二乗和)を取得する()
引数	なし
戻り値	BigDecimal(数值)
平方和(二乗和)を 計算します 。	

メソッド	最大値を取得する()
引数	なし
戻り値	BigDecimal(数値)
最大値を 計算します 。	

メソッド	最小値を取得する()
引数	なし
戻り値	BigDecimal(数値)
最小値を 計算します 。	

メソッド	最頻値を取得する()
引数	なし
戻り値	BigDecimal(数値)
最頻値を 計算します 。	

メソッド	標準偏差を取得する()
引数	なし
戻り値	BigDecimal(数値)
標準偏差を計算します。	

接続例

動作イメージのように、「数値入力カウンタ」で指定された行位置のデータについて集計を行い、その結果 を右側の「テキストフィールド」に設定する処理手順を以下のように定義します。ここで行単位集計処理は 「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に元テーブルデータ、 第2引数に集計対象の行位置を指定してメソッド「ファンクションの呼び出し(2引数)」を実行すると、結 果の値が戻り値として得られるように定義しています。

 ファンクション	処理要求イベント	- テーブルを設定する	(1)	■ テーブル格納変数
ID:151 KEY:"行単位の集計"		ř		ID : 152 KEY : "データ操作用"
		指定行の値をリストとして取得する		
		(「行データ取得」ファンクションを呼ばず,直	接実行)	
		行データリストを位置指定で取得する	5 2	■ テーブル格納変数 15:450
				ID:152 KEY:"データ操作用"
		リストに設定されている値の和を計算する		
		集計対象データを設定する	3	▋基本統計処理(数値)
				ID:153 KEY:"集計用"
		和を取得する	4	■基本統計処理(数値)
				ID:153 KEY:"集計用"
 ラーブル格納変数 D:152 KEY:"データ操作用" 基本統計処理(数値) D:153 KEY:"集計用" 				
ボタン	アクションイベント	■■■行単位の集計を実行■■■]
TD:154 KEY:"行単位の集計"		第15 数:元ナーフルナータ,第25 数:集計 戻り値 :集計値	対象の行位置	
	c		5	
	L	ľ		ID:151 KEY:"行単位の集計"
		テキストを設定する	6	■ テキストフィールド
				ID:19 KEY:"取得したセルデータ"
■ 数値入力カウンタ ID : 155 KEY : "行位置"				

①の接続情報:処理対象のテーブルデータを設定する。

🛂 起動メソッド情報				X
	メソッド テーブルを設定す	중(PFObjectTable)	▼ 2×1	ノッド対象
NO 型	說明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0 PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:151] (KEY:"行単位の集計")	第1引数の取得
				了解 取消し
L				

②の接続情報:集計対象の行のデータを取得する。

型趙	記動メソッド情報				X
		メソッド 行データリストを位置指数	定で取得する(int)		ミメソッド対象
NO	型	說明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	int	指定位置	メソッド戻り値	ファンクション [ID:151] (KEY:"行単位の集計")	第2引数の取得
	·				
					了解 取消し

③の接続情報:集計対象データを設定する。

₩2	起動メソッド情報				×
		メソッド [集計対象データを設定する(PF	<mark>ObjectList)</mark> 🔹 全メソッド対象	
NO	型	記 兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
(0 PFObjectList	集計対象データ	メソッド処理結果	-	行データリストを位置指定で取得
		·	·		
					了解 取消し

④の接続情報:和を計算し、ファンクションの戻り値として返す。

<mark>™</mark> 2	起動メソッド情報				×
		メソ	ッド 和を取得する()	■ 全火:	ノッド対象
NO	型	ii Ĥ8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値

⑤の接続情報:定義した行単位の集計処理を実行する。

M_ #	起動メソッド情報				×
	メソッド [ファンクションの呼び出し(2引数) (Object,Object)		ミメソッド対象
NO	型	記印	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する
	1 Object	第2引数	メソッド戻り値	数値入力力ウンタ [ID:155] (KEY:"行位置")	数値を取得する
					了解 取消し

⑥の接続情報:結果をテキストフィールドに設定する。

メソッド/値
ファンクションの呼び出し(2引…
了解 取消し

第3章 テーブルデータ複合操作

本章では前章の基本操作を組み合わせたテーブルデータ操作の処理手順について説明します。 本章でテーブルデータの処理のために使用する主なコンポーネントは次のとおりです。

コンポーネント名	場所	説明
■テーブル格納変数	<i>[コンポーネント追加]</i> -[処理部品] -[変数]-[テーブル格納変数]	テーブルデータを格納し、様々な操作 を行うコンポーネント。
■リスト格納変数	<i>[コンポーネント追加]</i> —[処理部品] -[変数]-[リスト格納変数]	リストデータを格納し、様々な操作を 行うコンポーネント。本章では、各行、 各列の集計値を格納するために使用 しています。
■繰り返し制御(FOR)	[コンポーネント追加][処理部品] [条件制御][繰り返し制御(FOR)]	繰り返し処理を行うコンポーネント。 本章では、行または列について繰り返 し処理を行う際に使用します。
■ファンクション	<i>[コンポーネント追加]</i> -[処理部品] -[サブルーチン]-[ファンクショ ン]	与えられた引数に対し、処理結果を返 すコンポーネント。処理をまとめるた めに使用します。本章では、元になる テーブルデータと処理に必要な情報 とをファンクションのメソッドに引 数として与え、処理結果を戻り値とし て取得することを基本とします。

<u>3.1 集計表 1</u>



以下の図のように、テーブルデータの同一行・複数列の値を用いて計算を行い、その結果を追加列に設定 する処理手順について説明します。



使用メソッド

この集計表の生成処理は、基本操作の章の「列の追加」および「セル値を用いた計算」を組み合わせた処 理で実現します。ただし、列の追加については「列の追加」で定義した「ファンクション」コンポーネント を用いず、テーブル格納変数を用いて直接的に追加を行っています。集計表を作成するために使用する主な コンポーネントおよびメソッドは次のとおりです。

①列を追加する。

コンポーネント	■テーブル格納変数
メソッド	指定位置に列を追加する(int, String, Class)
引数	第1引数:追加位置
	第2引数:列名
	第3引数:型
戻り値	なし
列の位置、列の名前、データ型を	F指定して、列を追加します。データ型は、文字列の場合
「java.lang.String」、整数の場合「ja	ava.math.BigInteger」、実数の場合「java.math.BigDecimal」、
日付の場合「java.util.Date」、論理	値の場合「java.lang.Boolean」を設定します。

②行について繰り返し処理を行う。

コンポーネント	■繰り返し処理(FOR)	
メソッド	繰り返し処理を実行する(int, boolean, int, boolean, int)	
引数	第1引数:開始値	
	第2引数:開始値を含めるかどうか	
	第3引数:終了値	
	第4引数:終了値を含めるかどうか	
	第5引数:増減値	
戻り値	なし	
テーブルデータの行について繰り返し処理を実行します。		

③「セル値を用いた計算」を実行する。(前章を参照)

コンポーネント	■ファンクション(セル値を用いた計算)	
メソッド	ファンクションの呼び出し (6 変数) (Object, Object, Object,	
	Object, Object, Object)	
引数	第1引数:元テーブルデータ	
	第 2 引数:式(2 変数 A,B)	
	第3引数:第1変数Aの値を取得する行位置	
	第 4 引数:第1 変数 A の値を取得する列位置	
	第 5 引数:第 2 変数 B の値を取得する行位置	
	第 6 引数:第 2 変数 B の値を取得する列位置	
戻り値	Object(計算結果、BigDecimal)	
セル値の値を用いて計算を実行します。		

④計算値をセルに設定する。

コンポーネント	■テーブル格納変数	
メソッド	セルデータを位置指定で設定する(int, int, Object)	
引数	第1引数:行位置	
	第2引数:列位置	
	第 3 引数:データ	
戻り値	なし	
行位置および列位置を指定してセルデータを設定します。		

接続例

集計表作成処理は「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に 元テーブルデータ、第2引数に計算式(2変数A,B)、第3引数に第1変数Aの値を取得する列位置、第4 引数に第2変数Bの値を取得する列位置、第5引数に計算値を入れる列(追加する列)の位置、第6引数に 計算値を入れる列の列名、第7引数に計算値を入れる列のデータ型を指定してメソッド「ファンクションの 呼び出し(7引数)」を実行すると、結果の値が戻り値として得られるように定義しています。



①の接続情報:処理対象のテーブルデータを設定する。

₩_ 走	副メソッド情報				×
		メソッド テーブルを設定す	중(PFObjectTable)		全メソッド対象
NO	型	說明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド戻り値	ファンクション [ID:158] (KEY:"集計表1")	第1引数の取得
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
					了解 取消し

②の接続情報:計算結果を入れる列を追加する。

🔛 起動メソッド情報				X
	メソッド 指定位置に列る	を追加する(列名・型指定)(int,Strir	ng,Class) 🔹 🔳 🛨	メソッド対象
NO 型	i兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0 int	追加位置	メソッド戻り値	ファンクション [ID:158] (KEY:"集計表1")	第5引数の取得
1 String	列名	メソッド戻り値	ファンクション [ID:158] (KEY:"集計表1")	第6引数の取得
2 Class	뽀	メソッド戻り値	ファンクション <mark>[</mark> ID:158] (KEY:"集計表1")	第7引数の取得
				了解 取消し

③の接続情報:行について繰り返し処理を実行する。

₩_ 走	己動メソッド情報				X			
	メソッド <mark>繰り返し処理を実行する(int,boolean,int,boolean,int)</mark> 🚽 📄 全メソッド対象							
NO	型	i兑B月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値			
0	int	開始値	固定値	-	0			
1	boolean	開始値を含めるかどうか	固定値	-	true			
2	2 int	終了値	メソッド戻り値	テーブル格納変数 [ID:160] (KEY:"データ操作用")	行数を取得する			
3	boolean	終了値を含めるかどうか	固定値	-	false			
4	lint	増減値	固定値	-	1			
					了解 取消し			

④の接続情報:ファンクションの戻り値としてテーブルデータを返す。

₩2 #	起動メソッド情報					×
		メソッド テーフ	ブルを取得する()		▼ 2メソッド	対象
NO	型	記印	取得方法	コンボーネント		メソッド/値
						了解 取消し

⑤の接続情報:各行についてセル値を用いた計算を実行する。

🔛 起動メソッド情報				×
メソッド	ファンクションの呼び出し(6引数) (Object,Object,Obje	ct,Object,Object,Object) 🔹 🗖 全	メソッド対象
NO 型	記 泊月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0 Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル格納変数 [ID:160] (KEY:"データ操作用")	テーブルを取得する
1 Object	第2引数	メソッド戻り値	ファンクション [ID:158] (KEY:"集計表1")	第2引数の取得
2 Object	第3引数	メソッド戻り値	繰り返し制御(FOR) [ID:159] (KEY:"繰り返し制御(FOR	現在値を取得する
3 Object	第4引数	メソッド戻り値	ファンクション [ID:158] (KEY:"集計表1")	第3引数の取得
4 Object	第5引数	メソッド戻り値	繰り返し制御(FOR) [ID:159] (KEY:"繰り返し制御(FOR	現在値を取得する
5 Object	第6引数	メソッド戻り値	ファンクション [ID:158] (KEY:"集計表1")	第4引数の取得
				了解 取消し

⑥の接続情報:計算結果を指定列に設定する。

💾 起重	助メソッド情報				X
		メソッド セルデータを位置指定で設	定する(int,int,Object)	▼ 2メソッ	"対象
NO 1	型	i说8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0 in	nt	指定行	メソッド戻り値	繰り返し制御(FOR) [ID:159] (KEY:"繰り返し制御(FOR	現在値を取得する
1 in	nt	指定列	メソッド戻り値	ファンクション [ID:158] (KEY:"集計表1")	第5引数の取得
20	Dbject	設定するデータ	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(6引…
					了解 取消し

⑦の接続情報:定義した集計表作成処理を実行する。

🔁 起動メソッド情	青報			X
	メソッド ファンクションの呼び出し(7引数)(Object,Object,Ob	ject,Object,Object,Object,Object)	▼ 2メソッド対象
NO 型	記 月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0 Object	第13]数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する
1 Object	第2引数	固定値	-	A*B
2 Object	第3引数	固定値	-	2
3 Object	第4引数	固定値	-	3
4 Object	第5引数	固定値	-	4
5 Object	第6引数	固定値	-	金額
6 Object	第 7引数	固定値	-	java.math.BigInteger
				了解 取消し

⑧の接続情報:結果をテーブルに設定する。

№₫	記動メソッド情報				×
		メソッド テーブルデータを	設定する(PFObjectTab	ole) 🔹 🕞 全メソッド対象	
NO	型	説明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	PFObjectTable	テーブルデータ	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(7引…
					了解 取消し

<u>3.2 集計表2</u>



以下の図のように、前節の集計表1に行を追加し合計値を設定する処理手順について説明します。

🍝 元デ-	- 夕・設定デ-	タ				_ 0 <mark>_ X</mark>		실 操作	結果・取得ラ					
品名	型番	単価	個数 出荷先	100 II-0-1	定用データ			品名	型番	単価	個数	金額	出荷先	取得したデータ
部品1	PRD101	100	2 A社					部品1	PRD101	100	2	200	Ażt	
部品2	PRD102	120	2 A社	1 F	PRD999			部品2	PRD102	120	2	240	Ażt	
部品3	PRD103	140	4 A社	=	÷п	=n		部品3	PRD103	140	4	560	Ażt	870/8 L +-
部品4	PRD104	160	4 A社		定用 	設定用		部品4	PRD104	160	4	640	Ażt	- 収得した
部品5	PRD105	180	2 A社	1 7	->(µµH)	τ−α((тн))		部品5	PRD105	180	2	360	Ażt	
部品1	PRD101	100	1 日社	2	<u>م</u> 00	部品10		部品1	PRD101	100	1	100	日社	
部品2	PRD102	120	5 B社	2	20	PRD999		部品2	PRD102	120	5	600	8社	
部品3	PRD103	140	5 B社		40	150		部品3	PRD103	140	5	700	B社	
部品4	PRD104	160	4 日社		60	3		彩品4	PRD104	160	4	640	B社	
部品5	PRD105	180	3 日社		00	5		5	PRD105	180	3	540	B社	
部品1	PRD101	100	2 C?±		80 E			a /a1	PRD101	100	2	200	C社	
部品2	PRD102	120	2 C?±	2	00			都品2	PRD102	120	2	240	C社	
部品3	PRD103	140	2 C社] 2	20			部品3	PRD103	140	2	280	C社	
部品4	PRD104	160	5 C社	2	40			部品4	PRD104	160	5	800	C社	
部品5	PRD105	180	5 C?±	2	60 🛄			部品5	PRD105	180	5	900	C社	
部品1	PRD101	100	2 D?±	2	80			部品1	PRD101	100	2	200	D社	
部品2	PRD102	120	2 D社	2	00			部品2	PRD102	120	2	240	D社	
部品3	PRD103	140	1 D社		20			部品3	PRD103	140	1	140	D社	
部品4	PRD104	160	1 D社		40			部品4	PRD104	160	1	160	D社	
部品5	PRD105	180	2 D?±					6Poo O	PRD105	180	2	360	UfI	
								合計				8,100		
							IN							 /
실 操作	パネル													
基本操作	作 複合操作	帳票印刷	51											
集計表1 クロス集計														
	27													

使用メソッド

この集計表の生成処理は、前節の「集計表 1」、基本操作の章の「列単位の集計」、「行の追加」等を組み合わせた処理で実現します。ただし、行の追加については「行の追加」で定義した「ファンクション」コンポーネントを用いず、テーブル格納変数を用いて直接的に追加を行っています。集計表を作成するために使用する主なコンポーネントおよびメソッドは次のとおりです。

①集計表1を生成する。

コンポーネント	■ファンクション(集計表 1)
メソッド	ファンクションの呼び出し (7 変数) (Object, Object, Object,
	Object, Object, Object, Object)
引数	第1引数:元テーブルデータ
	第 2 引数:式(2 変数 A,B)
	第3引数:第1変数Aの値を取得する列位置
	第4引数:第2変数Bの値を取得する列位置
	第5引数:計算値を入れる列の位置
	第6引数:計算値を入れる列の列名
	第7引数:計算値を入れる列のデータ型
戻り値	Object(計算結果、PFObjectTable)
集計表1を生成します。	

②列単位の集計を実行する。

コンポーネント	■ファンクション(列単位の集計)			
メソッド	ファンクションの呼び出し(2 変数)(Object, Object)			
引数	第1引数:元テーブルデータ			
	第 2 引数:集計対象の列位置			
戻り値	Object(集計結果、BigDecimal)			
指定列のデータの集計値を計算します。				

③行を追加し、合計値を設定する。

コンポーネント	■テーブル格納変数			
メソッド	最終尾に行を追加する()			
引数	なし			
戻り値	なし			
テーブルデータの最終尾に行(合計値の行)を追加します。				

メソッド	セルデータを位置指定で設定する(int, int, Object)			
引数	第1引数:行位置			
	第 2 引数:列位置			
	第 3 引数:データ			
戻り値なし				
行位置および列位置を指定してセルデータを設定します。(合計値、「合計」の文字を設定)				

接続例

集計表作成処理は「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に 元テーブルデータ、第2引数に計算式(2変数A,B)、第3引数に第1変数Aの値を取得する列位置、第4 引数に第2変数Bの値を取得する列位置、第5引数に計算値を入れる列の位置、第6引数に計算値を入れる 列の列名、第7引数に計算値を入れる列のデータ型、第8引数に合計値を入れる行に記述する名称を指定し てメソッド「ファンクションの呼び出し(8引数)」を実行すると、結果の値が戻り値として得られるように 定義しています。

ファンクション	処理要求イベント	集計表を作成:指定位置に計算値の列を追加し計	算結果を設定	定
	••	第13 数:元テーブルデータ,第23 数:式(2	変数A,B),	
	,	第3引数:第1変数Aの値を取得する列位置,第 第5引数・計算体を入れる利の位置。第5引数・	46 数:第23 計算値また。	変数Bの値を取得する列位置
		第35日数:計算他を入れる外の位置、第35日数・ 第73日数:計算値を入れる列のデータ型	計算順で入	41/32/00/2046
		戻り値:テーブルデータ		
		- ファンクションの呼び出し (7引数)	<u>(</u>)	
	l		<u> </u>	ID:158 KEY:"集計表1"
		テーブルを設定する	2	
				D:163 KEY:"データ操作用"
		列単位の集計を実行:計算列の値の合計を計算		1
		第131数:元テーブルデータ,第231数:集計対 戻り値:集計値	す象の列位置	
		ファンクションの呼び出し(2引数)	3	■ファンクション
				D:144 KEY:"列単位の集計"
		「行追加」ファンクションを呼ばず,直接実行	_	
		最後尾に行を追加する	4	■ テーブル格納変数
				ID:163 KEY:"データ操作用"
		合計の行に合計値を設定、「セルデータ設定」フ	マンクショ)	ンを呼ばず,直接実行
		セルデータを位置指定で設定する	5	 テーブル格納変数
				ID:163 KEY:"データ操作用"
		合計の行に名称を設定、「セルデータ設定」ファ	シクション	を呼ばず,直接実行
		セルデータを位置指定で設定する	6	テーブル格納変数
				ID:163 KEY:"データ操作用"
		テーブルを取得する	\bigcirc	■ テーブル格納変数
				ID : 163 KEY : "データ操作用"
- テーブル格納変数				
ID:163 VEV:"デーク操作田"				
	,			
 「ボタン	アクションイベント	■■■集計表を作成■■■:集計表1の最終行に	合計の行を通	創加し,合計値を設定
	••••••	第13月数:元テーブルデータ、第23月数:式(2	変数A,B),	
	,	第351級:第1変数AD/旭を取得する列位直,第 筆録 動・計算値を入れる列の位置 筆録 動・	45 (奴:弗43) 計管値を入	変数BO/IIIを取得する列位置 れる別の列名
		第731数:計算値を入れる列のデータ型	n a ne ez o	
		第8月数:合計値を入れる行に記述する名称		
		戻り値:テーブルデータ		
		レージョンクションの呼び出し(8引数)	8	<u></u>
				KEY:"集計表2"
		テーブルデータを設定する	9	<u> 一 テーブル </u>
				ID:8 KEY:"操作後データ"

①の接続情報:集計表1を生成する。

<mark>™_</mark> ∄	己動メソッド情報						x
	メソット	* ファンクションの呼び出し(7引	数)(Object,Object,Ob	ject,Object,Object,Object,Object)	-	全メソッド対象	
NO	型	記旧月	取得方法	コンポーネント		メソッド/値	
0	Object	第1引数	メソッド戻り値	ファンクション [ID:162] (KEY:"集計表2")		第1引数の取得	-
1	Object	第2引数	メソッド戻り値	ファンクション [ID:162] (KEY:"集計表2")		第2引数の取得	_
2	Object	第3引数	メソッド戻り値	ファンクション [ID:162] (KEY:"集計表2")		第3引数の取得	=
3	Object	第4引数	メソッド戻り値	ファンクション [ID:162] (KEY:"集計表2")		第4引数の取得	
4	Object	第5引数	メソッド戻り値	ファンクション [ID:162] (KEY:"集計表2")		第5引数の取得	-
						了解 取消	j j

②の接続情報:集計表1を処理対象として設定する。

起動メソッド情報				
	メソッド テーブルを設定す	▼ 2メソッド対象		
型	i.兑B月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0 PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(7引
				了解 取消し
	型)PFObjectTable	メソッド <mark>テーブルを設定す</mark> 型 IŬ明 PFObjectTable 設定するテーブル	メソッド テーブルを設定する(PFObjectTable) 型 説印 取得方法 PFObjectTable 設定するテーブル メソッド処理結果	メソッド テーブルを設定する(PFObjectTable) 型 説明 取得方法 コンポーネント PFObjectTable 設定するテーブル メソッド処理結果 -

③の接続情報:集計対象列について集計を実行する。

<mark>™</mark> 2	記動メソッド情報				×
	メソッ	ド ファンクションの呼び出	し(2引数)(Object,Object)	•	全メソッド対象
NO	型	i说 ⁰ 月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
(Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル格納変数 [ID:163] (KEY:"データ操作用")	テーブルを取得する
	1 Object	第2引数	メソッド戻り値	ファンクション [ID:162] (KEY:"集計表2")	第5引数の取得
	·		·		
					了解 取消し

④の接続情報:合計値を設定する行を追加する。

₩₂	己動メソッド情報					×
	メソッ	ド 最後尾に行を追加する()			▼ ■ 全メソッド	対象
NO	型 説明	Я	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
						了解 取消し

⑤の接続情報:合計値を設定する。

型起	副メソッド情報				×
	×	ソッド セルデータを位置指定で設定	定する(int,int,Object)	▼ 2メソッ	的象
NO	型	記印	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0	int	指定行	メソッド戻り値	テーブル格納変数 [ID:163] (KEY:"データ操作用")	最終行の位置を取得する
1	int	指定列	メソッド戻り値	ファンクション [ID:162] (KEY:"集計表2")	第5引数の取得
2	Object	設定するデータ	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(2引…
					了解 取消し

⑥の接続情報:合計値を意味する文字列を設定する。

<mark>₩</mark> ‡	己動メソッド情報				X
	:	メソッド セルデータを位置指定で設定	定する(int,int,Object)	▼ 2メソッ	ド対象
NO	型	i兑8月	取得方法	コンボーネント	メソッド/値
(Dint	指定行	メソッド戻り値	テーブル格納変数 [ID:163] (KEY:"データ操作用")	最終行の位置を取得する
1	1 int	指定列	固定値	-	0
2	2 Object	設定するデータ	メソッド戻り値	ファンクション [ID:162] (KEY:"集計表2")	第8引数の取得
					了解 取消し

⑦の接続情報:ファンクションの戻り値としてテーブルデータを返す。

₩」	己動メソッド情報					X
		メソッド テーブルを	取得する()		▼ 2メソット	"対象
NO	型	 兑8月	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
						了解 取消し

⑧の接続情報:定義した集計表作成処理を実行する。

🛂 起動メソッド情報				X
	メソッド ファンクションの呼び出	出し(8引数)(Object,Object,Ob	ject,Object,Object,Object,Object,Object)	📕 💌 全メソッド対象
NO 型	i 兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0 Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する
1 Object	第2引数	固定値	-	A*B
2 Object	第3引数	固定値	-	2
3 Object	第 4引数	固定値	-	3
4 Object	第5引数	固定値	-	4
5 Object	第6引数	固定値	-	金額
6 Object	第7引数	固定値	-	java.math.BigInteger
7 Object	第8引数	固定値	-	合計
				了解 取消し

⑨の接続情報:結果をテーブルに設定する。

🛂 起動メソッド情報				
	メソッド テーブル	データを設定する(PFObjectTab	le)	■ 全メソッド対象
NO 型	記 兑日月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0 PFObjectTable	テーブルデータ	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(8引…
				了解 取消し

3.3 クロス集計(ピボットテーブル生成)

動作イメージ

以下の図のように、テーブルデータから列指定(行方向の項目にする列、列方向の項目にする列、セル値 にする列)の情報に基づいて分類テーブルを生成し、各行・各列について集計する(クロス集計、ピボット テーブル生成)処理手順について説明します。



使用メソッド

このクロス集計処理は、前章の「分類テーブルの作成」、「列単位の集計」、「行単位の集計」等を組み合わ せた処理で実現します。ただし、集計値を入れる行および列の追加については「行の追加」「列の追加」で定 義した「ファンクション」コンポーネントを用いず、テーブル格納変数を用いて直接的に行っています。集 計表を作成するために使用する主なコンポーネントおよびメソッドは次のとおりです。

①分類テーブルを生成する。

コンポーネント	■ファンクション(分類テーブル作成)
メソッド	ファンクションの呼び出し (4 変数) (Object, Object, Object,
	Object)
引数	第1引数:元テーブルデータ
	第2引数:行方向の列名または列位置,
	第3引数:列方向の列名または列位置
	第4引数:セル値(集計対象)の列名または列位置
戻り値	Object(PFObjectTable)
分類テーブルを生成します。	

②列単位の集計を実行する。

コンポーネント	■ファンクション(列単位の集計)		
メソッド	ファンクションの呼び出し(2 変数)(Object, Object)		
引数	第1引数:元テーブルデータ		
	第2引数:集計対象の列位置		
戻り値	Object(集計結果、BigDecimal)		
指定列のデータの集計値を計算します。			

③行単位の集計を実行する。

コンポーネント	■ファンクション(行単位の集計)		
メソッド	ファンクションの呼び出し(2 変数)(Object, Object)		
引数	第1引数:元テーブルデータ		
	第2引数:集計対象の行位置		
戻り値 Object(集計結果、BigDecimal)			
指定行のデータの集計値を計算します。			

④行を追加し、**集計値**を設定する。

コンポーネント	■テーブル格納変数	
メソッド	最終尾に行を追加する(データリスト指定)(PFObjectList)	
引数	第1引数:データリスト	
戻り値	なし	
テーブルデータの最終尾に行(集計値の行)を追加します。		

⑤列を追加し、**集計値**を設定する。

メソッド	最終尾に列を追加する(列名・型・データリスト指			
	定)(String, Class, PFObjectList)			
引数	第1引数:列名			
	第2引数:型			
	第3引数:データリスト			
戻り値	なし			
列の名前、データ型、列データを指定して、最終列に列を追加します。				

⑥リストに要素を追加し、各行・各列の集計値を設定する。

コンポーネント	■リスト格納変数			
メソッド	最終尾に要素を追加する(Object)			
引数	第1引数:オブジェクト(集計値)			
戻り値	なし			
リストの最終尾に要素(集計値)を追加します。				

メソッド	空のリストを設定する(イベント発生なし)()
引数	なし
戻り値	なし
リストを初期化します。	

⑦行および列について繰り返し処理を行う。

コンポーネント	■繰り返し処理(FOR)			
メソッド	繰り返し処理を実行する(int, boolean, int, boolean, int)			
引数	第1引数:開始値			
	第2引数:開始値を含めるかどうか			
	第3引数:終了値			
	第4引数:終了値を含めるかどうか			
	第5引数:増減値			
戻り値	なし			
テーブルデータの行および列について繰り返し処理を実行します。				

接続例

クロス集計処理は「ファンクション」コンポーネントの処理要求イベントに定義しています。第1引数に 元テーブルデータ、第2引数に行方向の列名または列位置、第3引数に列方向の列名または列位置、第4引 数にセル値の列名または列位置を指定してメソッド「ファンクションの呼び出し(4引数)」を実行すると、 結果の値が戻り値として得られるように定義しています。

ファンクション	処理要求イベント	分類テーブル作成:		
	•	第13]数:元テーブルデータ,第23]数:行方向	の列名また	
)	第351数:列方向の列名または列位置,第451数 東山体・ニュージェジック	(:セル値(集	計対象)の列名または列位置
		戻り値:テーブルテーダ		
	E	L ファンクションの呼び出し(4引数)	(1)	D:116
				KEY':"分類テーブル作成"
		テーブルを設定する	2	🗐 テーブル格納変数
				ID:168 KEY:"データ操作用"
		空のリストを設定する(イベント発生なし	.) <mark>3</mark>	URLASS
				ID:169 KEY:"集計格納用"
		最後尾に要素を追加する	4	Uスト格納変数
				ID:169 KEY:"集計格納用"
		繰り返し処理を実行する	5	一繰り返し制御(FOR)
				ID:106 KEY:"繰り返し制御(FOR)166"
		「行追加」「行データ設定」ファンクションを呼	ばず,直接	美行
		最後尾に行を追加する(データリスト指定	E) <mark>(6)</mark>	 デーブル格納変数
				ID:168 KEY:"データ操作用"
		空のリストを設定する(イベント発生なし	\mathcal{O}	リスト格納変数
				ID:169 KEY:"集計格納用"
		繰り返し処理を実行する	8	🧐 繰り返し制御(FOR)
				ID : 167 KEY : "繰り返し制御(FOR)167"
		「列追加」「列データ設定」ファンクションを呼	ばず,直接	夷行
		最後尾に列を追加する例名・型・データリス	ト指定)	📕 テーブル格納変数
			9	ID:168 KEY:"データ操作用"
		テーブルを取得する		
			10	ID.108 KEY:"データ操作用"
一 繰り返し制御(FOR)	一列ずつ取り出しデータの和を計算	<u>軍しリスト格納変数に格納</u>		7
D:166 KEY:"繰り返し制御(FOR)166"	アクションイベント	列車1200年前で美行: 第161数:元テーブルデータ,第261数:集計対 戸山体・集計体	縁の列位置	
			(II)	-
	[<u>ファンクションの呼び出し(251数)</u> 	U)	ID:144 KEY:"列単位の集計"
		最後尾に亜素を追加する	(12)	 リスト格納変数
				ID:169 KEY:"集計格納用"



①の接続情報:分類テーブルを生成する。

₩2 #	記動メソッド情報				X
	メソッド ファンクションの呼び出し(4引数)(Object,Object,Object,Object) 🗸 📄 全メソッド対象				
NO	型	記名	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 Object	第1引数	メソッド戻り値	ファンクション [ID:165] (KEY:"クロス集計")	第1引数の取得
	1 Object	第2引数	メソッド戻り値	ファンクション [ID:165] (KEY:"クロス集計")	第2引数の取得
	2 Object	第3引数	メソッド戻り値	ファンクション [ID:165] (KEY:"クロス集計")	第3引数の取得
	3 Object	第4引数	メソッド戻り値	ファンクション [ID:165] (KEY:"クロス集計")	第4引数の取得
	了解 取消し				

②の接続情報:分類テーブルを処理対象として設定する。

₩2	起動メソッド情報					X
	メソッド テーブルを設定する(PFObjectTable) 🔹 🔍 💽 全メソッド対象					"対象
NO	型	ii 兑8月	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
	0 PFObjectTable	設定するテーブル	メソッド処理結果	-		ファンクションの呼び出し(4引…
						了解 取消し

③の接続情報:集計値を格納するリストを初期化する。

💾 起動メソッド情報				x	
	メソッド 空のリストを設定する(イベント発生なし)() 🔹 🖃 全メソッド対象				
NO 型	記 兑8月	取得方法	コンボーネント	メソッド/値	
				727 H DN()	

④の接続情報:集計行の名称を設定する。

🔛 起動メソッド情報				x	
	メソッド 最後尾に要素を追加する(Object) 🚽 📄 全メソッド対象				
NO 型	i兑0月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値	
0 Object	対象とするオブジェクト	固定値	-	総計	
				了解 取消し	

⑤の接続情報:各列について繰り返し処理を実行する。

<mark>№</mark> ≵	己動メソッド情報				X					
	メソッド 🛛 繰り返し処理を実行する (int, boolean, int, boolean, int) 🔹 🔽 全メソッド対象									
NO	型	説明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値					
0	int	開始値	固定値	-	1					
1	boolean	開始値を含めるかどうか	固定値	-	true					
2	2 int	終了値	メソッド戻り値	テーブル格納変数 [ID:168] (KEY:"データ操作用")	列数を取得する					
3	boolean	終了値を含めるかどうか	固定値	-	false					
4	lint	増減値	固定値	-	1					
					了解 取消し					

⑥の接続情報:各列の集計値を最終行に設定する。

₯₫	2 起動メソッド情報							
	メソッド 最後尾に行を追加する(データリスト指定)(PFObjectList) 🔹 🗖 全メソッド対象							
NO	型	ii 見	取得方法	コンポーネント	メソッド/値			
0	PFObjectList	追加行のデータリスト	メソッド戻り値	リスト格納変数 [ID:169] (KEY:"集計格納用")	リストを取得する			
					了解 取消し			

⑦の接続情報:集計値を格納するリストを初期化する。

型起	動メソッド情報				X				
	メソッド <mark>空のリストを設定する(イベント発生なし)()</mark> ▼								
NO	型	 見日月	取得方法	コンボーネント	メソッド/値				
					「解」「取消し」				

⑧の接続情報:各行について繰り返し処理を実行する。

🌄 走	₩ 起動メソッド情報								
メソッド <mark>繰り返し処理を実行する (int,boolean,int,boolean,int)</mark> ▼									
NO	型	記印	取得方法	コンボーネント	メソッド/値				
0	int	開始値	固定値	-	0				
1	boolean	開始値を含めるかどうか	固定値	-	true				
2	2 int	終了値	メソッド戻り値	テーブル格納変数 [ID:168] (KEY:"データ操作用")	行数を取得する				
3	boolean	終了値を含めるかどうか	固定値	-	false				
4	lint	増減値	固定値	-	1				
					了解 取消し				

⑨の接続情報:各行の集計値を最終列に設定する。

№₫	己動メソッド情報				×			
	メソッド 最後尾に列を追加する(列名・型・データリスト指定)(String,Class,PFObjectList) 🔹 🗨 全メソッド対象							
NO	型	記印月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値			
0	String	列名	固定値	-	総計			
1	Class	列型	固定値	-	java.math.BigInteger			
2	PFObjectList	列データのリスト	メソッド戻り値	リスト格納変数 [ID:169] (KEY:"集計格納用")	リストを取得する			
					了解 取消し			

⑩の接続情報:ファンクションの戻り値としてテーブルデータを返す。

M	記動メソッド情報					×
	×	ソッド テーブルを取得する()			💌 🗖 全メソッド	対象
NO	型	記 1 月	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
						了解 取消し

⑪の接続情報:列単位の集計を実行する。

M2 i	起動メソッド情報				X
	メソッド	ファンクションの呼び出し(2引数) (Object,Object)		シンッド対象
NO	型	説明	取得方法	コンボーネント	メソッド/値
	0 Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル格納変数 [ID:168] (KEY:"データ操作用")	テーブルを取得する
	1 Object	第2引数	メソッド戻り値	繰り返し制御(FOR) [ID:166] (KEY:"繰り返し制御(FOR	現在値を取得する
					了解 取消し

12の接続情報:各列の集計値をリストに追加する。

₩₂	己動メソッド情報				×		
	メソッド <mark>最後尾に要素を追加する(Object)</mark> 🗸 📄 全メソッド対象						
NO	型	i.兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値		
(Object	対象とするオブジェクト	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(2引…		
	·	·					
					了解 取消し		

13の接続情報:行単位の集計を実行する。

🛂 起動メソッド情報				X
:	メソッド ファンクションの呼び	出し(2引数)(Object,Object)	•] 全メソッド対象
NO 型	ii 兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
0 Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル格納変数 [ID:168] (KEY:"データ操作用")	テーブルを取得する
1 Object	第2引数	メソッド戻り値	繰り返し制御(FOR) [ID:167] (KEY:"繰り返し制御(FO	R 現在値を取得する
				· ·
				了解 取消し

⑭の接続情報:各行の集計値をリストに追加する。

₩ 起	動メソッド情報				×		
	メソッド <mark>最後尾に要素を追加する(Object)</mark> ▼ 🗍 全メソッド対象						
NO	型	説明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値		
0	Object	対象とするオブジェクト	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(2引		
					了解 取消し		

15の接続情報:定義したクロス集計処理を実行する。

₩2,5	20 起動メソッド情報								
	メソッド	ct,Object) 🔹 🗖 全	:メソッド対象						
NO	型	i兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値				
	Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する				
	1 Object	第2引数	固定値	-	0				
	2 Object	第3引数	固定値	-	4				
:	3 Object	第4引数	固定値	-	3				
					了解 取消し				

16の接続情報:結果をテーブルに設定する。

₩2	起動メソッド情報				x
		メソッド テーブル	データを設定する(PFObjectTab	le) 🗸	】 □ 全メソッド対象
NO	型	説明	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
(0 PFObjectTable	テーブルデータ	メソッド処理結果	-	ファンクションの呼び出し(4引
					「ア解」「取消し」

第4章 帳票印刷

帳票機能とはデータの印刷機能です。帳票機能を使用するためには帳票コンポーネントを用います。本章 では帳票コンポーネントを用いたテーブルデータの印刷について説明します。特に後半ではテーブルデータ の繰り返し印刷機能(流し込み印刷機能)について設定方法を説明します。帳票についての基本的事項は「サ ンプル(帳票)」「注文票アプリケーション作成マニュアル」等をご覧ください。

本章で使用する主なコンポーネントは次のとおりです。

コンポーネント名	場所	説明
■帳票	<i>[コンポーネント追加]</i> -[入出力]- [帳票]-[帳票]	データを印刷するためのコンポーネ ント。本章では特にテーブルデータの 繰り返し印刷(流し込み印刷)につい て説明します。

<u>4.1 テーブルデータの印刷</u>

動作イメージ

以下の図のように、テーブルデータを印刷するための設定について説明します。

遙 元データ・設定データ		🎒 操作結果・取得	データ	
品名型番単価個数	出荷先 設定用データ	品名型番	単価 個数 !	出荷先 取得したデータ
部品1 PRD101 100 2 A				
部品2 PRD102 120 2 A 部品3 PRD103 140 4 A	<u>+</u>			
部品4 PRD104 160 4 A				取得した
部品5 PRD105 180 2 A	<u>ナーダ(列用)</u> ナーダ(行用)			0277-3
部品1 PRD101 100 1E 部品2 PRD102 120 5E	<u>土</u> 200 <u>へ</u> 部品10			
部品3 PRD103 140 5 E	± 220 PRD999			
部品4 PRD104 160 4 E	± 260 3			
部品5 PRD105 180 3E	<u>+</u> 280 = E社			
部品2 PRD102 120 20	± 200			
部品3 PRD103 140 20	<u>±</u> 220			
部品4 PRD104 160 50	240			
部品1 PRD101 100 20	200			
部品2 PRD102 120 2 D	±200			
部品3 PRD103 140 1 E	220			
部品5 PRD105 180 2 D	± 240 -			
▲ 場作パネル				
(注) 「第1F/ \-T>レ				
基本操作 複合操作 帳票印刷				
印刷(テーブル1) 印刷(テ・	ブル2) 繰り返し印刷(テーブル)	繰り返し印刷(バー:	コード)	
	– 21	JT		
	▲ 帳票ブレビュー		×	
	▼ グリッド線表示 縮小 100% 拡大	前ページ 次ページ	1/1 印刷	
		~ ~ ~ ~ ~ ~		
	テーフルナー	ジ印刷ナスト		
	음감 말을 해	低 個数 出荷	i£	
	#品1 PRD101	100 2 A社		
	部品3 PRD102 部品3 PRD103	140 4 A社		
	部品4 PRD104	160 4 A社		
	部品5 PRD105	180 2 A社		
	部品1 PRD101	100 1 日社		
	部品2 PRD102	120 5 B社		
	部品4 PRD103	160 4 B社		
	部品5 PRD105	180 3 B社		
	部品1 PRD101	100 2 C社		
	部品2 PRD102	120 2 C社		
	部品3 PRD103	140 2 C社 180 6 C社		
	部品5 PRD105	180 5 C社		
	部品1 PRD101	100 2 D社		
	部品2 PRD102	120 2 D社		
	部品3 PRD103	140 1 D社		
	部品4 PRD104 部品5 PRD105	180 2 D#		
	用紙設定 グリッド間隔:5mm	uhun uhun uhun uhun uh	開じる	
	0	10 20 30 40 50		

-テーブルデータ操作 96-

設定手順

テーブルデータを印刷するためには、帳票編集画面でテーブル要素を追加し、データ取得するコンポーネ ントおよびメソッドを選択します。

①テーブル要素の追加

帳票編集画面でマウス右クリックし、[帳票要素追加]・[テーブル要素]を選択します。



②データ取得設定

追加されたテーブル要素上でマウス右クリックし、[データ設定]-[データ取得設定...]を選択します。



-テーブルデータ操作97-

表示された「データ取得設定」ダイアログで、データを取得するコンポーネントとメソッドを設定します。

🙀 データ取得設定	X
取得元コンポーネント テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	変更
データ取得メソッド	
	🔲 全メソッド
テーブルデータを取得する()	•
設定 キャンセル	

取得先のテーブルにデータが設定されている場合、以下のように表示されます。

₩ 帳票レイアウト編集								X
□-目 帳票 [ID:172] (KEY:"テーブル印刷用1")▲	縮小	100%	拡大	前ページ ()	<u>☆ページ</u>	ページ追加	ページ削除	1/1
- <u>通</u> ラベル (テーブルデータ印) - 田 テーブ								
ロー目 帳買 [ID:174] (KEY:"テーブル印刷用2")								
■P.1 								
			テーブル	データ日	「刷テス	۲ F		
□ · III · IID:176] (KEY:"テーフル繰り返し □ · P 1				/ / -		•		
		品名	型番	単価	個数	出荷先		
- ▲ ラベル (1) (ペーン番号) - ▲ ラベル ()		部品1	PRD101	100	2	A社		
▲ ラベル (2) (KEY:"テーブル繰り返し印』		部品2	PRD102	120	2	A社		
		部品3	PRD103	140	4	A社		
→ サーブル (繰り返し印刷, KEY: 元ナー: 		部品4	PRD104	160	4	A社		
- ▲ ラベル (/)		部品5	PRD105	180	2	A社		
▲ ラベル (2) (KEY:"テーブル繰り返し印刷		部品1	PRD101	100	1	B社		
■"目帳票[ID:178](KEY:"ハーコード線の返り 由-P1		部品2	PRD102	120	5	B社		
- 🖪 ラベル (バーコード印刷テスト)		部品3	PRD103	140	5	B社		
- III バーコード ("PRD101") (繰り返し印刷		部品4	PRD104	160	4	B社		
■ ハーコード(PRD102")(繰り返し印刷 ■ バーコード("PRD103")(繰り返し印刷		部品5	PRD105	180	3	B社		
		部品1	PRD101	100	2	C社		
		部品2	PRD102	120	2	C社		
────────────────────────────────────		部品3	PRD103	140	2	C社		
▲ ラベル (部品2) (繰り返し印刷, KEY:"元		部品4	PRD104	160	5	C社		
- ▲ ラベル (部品3) (繰り返し印刷, KEY:"元		部品5	PRD105	180	5	C社		
▲ ラベル (部品4) (繰り返し印刷, KEY:"元 ▲ ラベル (部品5) (繰り返し印刷, KEY:"元		部品1	PRD101	100	2	D社		
▲ ラベル (部品1) (繰り返し印刷, KEY:"元		m/ratio		-0-				閉じる
		用紙設定	クリッド間隔	:5mm 0 1	0 20 30	40 50		

③描画設定

テーブルの描画設定は、テーブルデータ全体にかかわる設定と各列の設定が可能です。

・テーブル全体の描画設定

テーブル要素上でマウス右クリックし、[テーブル描画属性設定...]を選択します。

02		120	2		
03	-	テーブル描画層	剧性設定.		
	:	カラム描画設定	È	•	
104	í	行高さ自動調整	뿉		
05	2	データ設定			
101		Fto Min		,	
02	-	里相思想		·	
	r	帳票要素コピー	_		
03	r	に要要去比した	+1+		
104			10		
05	ſ	限票要茶削除			

表示された「テーブル描画設定」ダイアログで、各種設定を行います。

テーブル描画設定						×
テーブル設定			罫線設定		ヘッダ行設定	
文字フォント		変更	罫線色	変更	● ● ヘッダ行を	き表示する
文字色		変更	外枠(Point)	1	☑ テーブル幅	新性利用
下線	🔲 表:	示する	ヘッダ線(Point)	1		
縦余白(Point)		5 🌲			文字フォント	変更
横余白(Point)		5	横線(Point)	0.5	文字色	変更
行間隔(Point)		0	縦線(Point)	0.5	下線	□ 表示する
文字位置	左上	•			縦余白(Point)	5 🚔
背景色		変更			横余白(Point)	5 💂
- 繰り返し印刷					行間隔 <mark>(Point</mark>)	0
表示行数		10 🔶			文字位置	左上 👻
☑ テーブル高さ自	自動調整	<u>x</u>			背景色	変更
プレビュー						
		列-A	列-B	列-C	列-D	
		データ-AD	データ-B0	データ-CO	データ・DO	
		データ-A1	データ-B1	データ-C1	データ-D1	
		データ-A2	データ-B2	データ・C2	データ・D2	
			設定	キャンセル		

各列の描画設定

テーブル要素上でマウス右クリックし、[カラム描画設定]-[列名]-[描画属性設定...]を選択します。

-	部昌之	PPD102	1/10	1	4		A社
	奈 尼	テーブル描画属性設定。					∆2+
H		カラム描画設定	•	[0] 品:	名 🕨		
-	部	行高さ自動調整		[1]型	番 ▶		A社
	部	データ設定	- + ([2] 単	(ਜ਼ ▶	描	画属性設定…
1	部	デージャン 香わ順		[3] (風	 žtr ⊾	✓ =:-	フォルト描画
-	部	±18/48	·		°^ '∐ ₩₩ ⊾		B社
	部	帳票要素コピー		[4] 出	4	<u></u>	B社
1	部	帳票要素貼り付け 帳要要表別除			з		B社
	部品,		100		2		C社
- 1							

表示された「テーブルカラム描画設定」ダイアログで、各種設定を行います。

テーブルカラム描画設	Ē			×
◎ 文字列 ◎ バー	コード 🔘 QRコード	プレビュー		
文字フォント	変更		データ	
文字色	変更			
下線	📃 表示する			
縦余白(Point)	5			
横余白(Point)	5			
行間隔(Point)	0			
文字位置	左上 ▼	テキスト形式		
背景色	変更	表示バターン	#,##0.###	
	設定	キャンセル	•	

接続例

帳票の印刷は帳票コンポーネントのメソッドを実行することにより行います。

	アクションイベント	印刷ブレビュー画面を表示する	(1)	「帳票
ID:171 KEY:"印刷(テーブル1)"				ID : 172 KEY : "テーブル印刷用1"
ID:172 KEY:"テーブル印刷用1"				

①の接続情報:印刷を実行する。

<mark>₩</mark> 2 #	己動メソッド情報				X
		メソッド 印刷プレビュ	ー画面を表示する(Con	nponent) 🔹 🔽 全メソッド対象	
NO	型	記印	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
(Component	親コンポーネント	固定値	-	
					了解 取消し

<u>4.2 テーブル内のバーコード・QRコード印刷</u>

動作イメージ

以下の図のように、テーブルデータ内にバーコードまたはQRコード¹を描画し印刷するための設定について説明します。

	▲ <u>デデータ・設定データ</u>		
	品名 型番 単価 個数 出荷先	いた お お お か か か か か か か か か か か か か か か か	取得したデータ
	部品1 PRD101 100 2 A社	部品1 PRD101 100 2 A社	AXIGO(C) X
	部品2 PRD102 120 2 A社	PRD999 部品2 PRD102 120 2 A社	
	部品3 PRD103 140 4 A社	設定用 設定用 部品3 PRD103 140 4 A社	取得した
	部品4 PRD104 160 4 A社	データ(列用) データ(行用)	リストデータ
	파료5 PRD105 180 2 AFI	日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本	
	部品2 PRD102 120 5 B社		
	部品3 PRD103 140 5 B社	240 150	
	部品4 PRD104 160 4 B社		
	部品5 PRD105 180 3 B社		
	部品1 PRD101 100 2 C社		
	部品3 PRD103 140 2 C社	220	
	部品4 PRD104 160 5 C社	240	
	部品5 PRD105 180 5 C社	260	
	部品1 PRD101 100 2 D社	280	
¹ /22.2 (2)2 ²⁰ /20	部品2 PRD102 120 2D社 部品2 PRD102 140 1D社	200	
	部品4 PRD104 160 1 D社	220	
	部品5 PRD105 180 2 D社	240 -	
	· · · · · · · · ·		
山根ヤ(オル) しの 基大技作に「接名作用 (1)((アーブル)) (1)((アーブル)) (1)((ワーブル)) (1)((ワーブル)) (1)((ワーブル))	r		
	▲ 操作パネル		
日本	基本操作複合操作帳票印刷		
DU7 Image: Dir Image: Dir Image: Dir Image: Dir Image: Dir Image: Dir Image: Dir Image: Dir Image: Dir Image: Dir Image: Dir Image: Dir Image: Dir Image: Dir Image: Dir Image: Dir Image: Dir Image: Dir Image: Dir			
クリア			
		クリア	
$\frac{1}{2} \frac{4\pi}{2} \frac{1}{2} 1$			
PUJ 2 HIRES PUJ 2 H	<u></u>		
$r - J J J J - S D D D - S F$ a_6 a_7 a_7 a_7 a_7 a_7	☑ ½	F線表示 縮小 100% 拡大 前ページ 次ページ 1/1 印刷	
r - Jur - S p p p - z h $a = 1$ $a = 2$		á l	
$r - J u \overline{r} - g t p p \overline{r} \overline{r} - s \overline{r}$ $a.6$ \overline{se} $a.6$ \overline{se} $e.6$ \overline{se}			
BASE C-JUT-OP DIRIGEN BASE STORE BASE STOR			
0 0		テーブルデータ印刷ティト	
A6 26 26 40 60 2 At 66 10 100 2 At At 66 10 100 2 At 66 100 100 2 At 66 100 100 2 At 66 100 100 4 At 66 100 100 100 4 66 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100 <th< th=""><th></th><th></th><th></th></th<>			
Image: 1 Image: 1 Image: 1 100 2 Att Image: 2 Image: 1 Image: 2 120 2 Att Image: 3 Image: 2 Image: 2 Att Image: 2 Image: 2 Image: 4 Image: 2 Image: 2 Att Image: 2 Image: 2 Image: 2 Image: 4 Image: 2 Image: 2 Att Image: 2 Att Image: 2 Image: 2 Att Image: 4 Image: 2 Image: 2 Att Image: 2 Att Image: 2 Att Image: 4 Image: 2 Image: 2 Att Image: 2 Att Image: 2 Att Image: 4 Image: 2 Image: 2 Image: 2 Att Image: 2 Att Image: 4 Image: 2		品名 型書 単価 個数 出荷先	
##1 #PR0101* 100 2 At ##42 ##40 120 2 At ##43 ##1000 4 At ##44 ##1000 100 4 ##44 ##1000 100 4 ##44 ##1000 100 1 ##45 ##1000 100 1 ##41 ##1000 100 1 ##41 ##20000 100 2 ##42 ##400000 10000 1 ##41 #100000000 1 1000000000000000000000000000000000000			
###2 ####################################			
#8.2 *** 120 2 44 #8.3 *** PR010.3* 140 4 44 #8.4 *** 100 4 44 #8.5 *** 100 4 44 #8.1 *** 100 1 54 #8.1 *** 100 1 54 #8.2 *** 100 1 54 #8.2 *** 100 1 54 #8.2 *** 100 1 54 #8.2 *** 100 1 54 #8.2 *** 100 1 54 #8.2 *** 100 1 54 #8.2 *** 100 1 50			
#品3 ・PRD103・ ・100 ・4 ・4 ・		■ 部品2 * PRD102* 120 2 A社	
#843 **PRD103* 140 4 4± #844 **PRD104* 100 4 4± #845 **PRD105* 180 2 4± #841 **PRD105* 100 1 9± #841 **PRD101* 100 1 9± #841 **PRD101* 100 1 9± #842 **PRD101* 100 1 9± #843 **PRD101* 100 1 9± #843 **PRD101* 100 1 9± #844 **PRD101* 100 1 9±			
###4 ####################################		部品3 140 4 A社	
#8.4 #.00 4 4.4 #8.5 #.000 2 4.4 #8.1 #.000 1 94.4 #8.1 #.000 1 94.4 #8.2 #.000 1 94.4 #8.1 #.000 1 94.4 #8.1 #.000 1 94.4 #8.1 #.000 1 94.4 #8.1 #.000 1 94.4 #8.1 #.000 1 94.4 #8.1 #.000 1 94.4 #8.1 #.000 1 94.4 #8.1 #.000 1 94.4 #8.1 #.000 1 94.4 #8.1 #.000 1 94.4 #8.1 #.000 1 94.4 #8.1 #.000 1 94.4 #8.1 #.000 1 94.4 #8.1 #.000 1 94.4 #8.1 #.000 1 94.4 #8.1 #.000 1 94.4			
###5 ####################################		部品4 160 4 A社	
###5 #PRD105* 190 2 A社 ###1 #PRD101* 100 1 B社 ###1 *PRD101* 100 1 B社 ###5 ************************************		* PRD104*	
Hitting			
###1 ####################################		*PRD105*	
● ● ● ● ● ● PRD101* 100 1 B4 ● ● ● ● ● ● ● ●			
		部品1 #WWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWW	
- 用紙設定。 グリッド間隔.5mm 0 10 20 30 40 50 開じる			
用版設定 グリッド開発 5mm 開じる 0 10 20 30 40 50			
用紙設定 グリッド開発.5mm 開じる 0 10 20 30 40 50			
用紙設定			
75008342			
		иликехие	

¹ QR コードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

設定手順

テーブルデータにバーコードまたはQRコードを描画し印刷するためには、「4.1 テーブルデータの印刷」の 「設定手順」・「③描画設定」・「各列の描画設定」において、以下のように設定します。

各列の描画設定

テーブル要素上でマウス右クリックし、[カラム描画設定]・[*列名*]・[描画属性設定...]と選択し、該当列の描画 設定ダイアログを表示します。

Г	品。	8		型番			単伯	6			個数		出行	岢先
٦		テー:	ブル描詞	画属性調	设定	Ē								
		カラ	ム描画	設定		Þ		<mark>[0]</mark> 品名	2	×,				
+		行高る	さ自動	問整				[1] 型君	₽	۲	\checkmark	描画	属性設定	ŧ
		デー:	夕設定			•		[2] 単伯	Ш	×		デフ	ォルト打	画
\pm		重ねり	順			۱.		[3] 個裝	执	×				
+		帳票	要索コー	<u>_</u> _				[4] 出荷	売	۲				
		帳票	要素貼	り付け			-			-				
		帳票	要素削	涂										

表示された「テーブルカラム描画設定」ダイアログで、「バーコード」または「QR コード」を選択します。

テーブルカラム描画設	Ê	-X	
◎ 文字列 💿 バー:	コード () QRコード	プレビュー	
コード体系	CODE39 -		
データ表示	▼ 表示する		
チェックディジット	🥅 付加する	* 1 2 3 4 A B C D *	
表示サイズ	📝 原寸表示する		
縦余白(Point)	5		
横余白(Point)	5		
文字位置	中央 🔻		
背景色	変更		
	設定	キャンセル	

接続例

帳票の印刷は帳票コンポーネントのメソッドを実行することにより行います。ページ内にテーブルが収ま るようにするため、行数を制限したテーブルを生成し、帳票テーブル要素からデータ取得先として設定して います。

<mark> ボタン ア</mark> D:173 KEY:"『印刷(テーブル2)"	2937475	■■■部分テーブルデータ取得■■■ 第131数:元テーブルデータ,第231数:開始行 第431数:開始列位置,第531数:終了列位置 戻り値:テーブルデータ	位置,第3	引数:終了行位置,
		ファンクションの呼び出し(5引数)	1	
	Ī	-		ID.91 KEY:"部分テーブル取得"
		テーブルデータを設定する	(2)	<u> </u>
			_	KEY:"操作後データ"
	l	印刷ブレビュー画面を表示する	3	■帳票 ID:174
				KEY:"テーブル印刷用2"
<mark> 「</mark> 帳票 ID : 174 KEY : "テーブル印刷用2"				

①の接続情報:部分テーブルを取得する。(5行のテーブルを生成)

₩_	記動メソッド情報				X
	メソッド	ファンクションの呼び出し(5引数) (Object,Object,Obje	ct,Object,Object) 🔹 🗖 全	メソッド対象
NO	型	i兑8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	Object	第1引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	テーブルデータを取得する
	1 Object	第2引数	固定値	-	0
	2 Object	第3引数	固定値	-	5
	3 Object	第4引数	固定値	-	0
	4 Object	第5引数	メソッド戻り値	テーブル [ID:4] (KEY:"元データ")	最終列の位置を取得する
					了解 取消し

②の接続情報:部分テーブルを設定する。

🛂 起動メソッ	ド情報					×
		メソッド テーブルデータ	を設定する(PFObjectTab	le)	🔹 🗖 全メソッド対象	
NO 型	i 关 E	明	取得方法	コンポーネント		メソッド/値
0 PFObject	Fable テー	- ブルデータ	メソッド処理結果	-		ファンクションの呼び出し(5引…
						了解 取消し

③の接続情報:印刷を実行する。

		×				
メソッド 印刷プレビュー画面を表示する(Component) 🛛 🗸 🗖 全メソッド対象						
取得方法	コンポーネント	メソッド/値				
固定値	-					
		了解 取消し				
	□刷ブレビュー画面を表示する(取得方法 ■固定値	ふ P P P P P P P P P P P P P P P P P P P				

4.3 繰り返し印刷1(流し込み印刷): テーブル編

動作イメージ

以下の図のように、テーブルデータを順に帳票のテーブル要素に流し込み、最後のテーブル要素に収まり きらない場合そのページを繰り返し印刷する機能を「繰り返し印刷」機能と呼びます。本節ではテーブルデ ータのテーブル要素としての繰り返し印刷のための設定について説明します。

高名 型番 単価 個数 出商先 副品 PRD101 100 2/41 <td< th=""><th>▲ 元データ・設定データ</th><th></th><th>▲ 操作結果・取得データ</th><th></th></td<>	▲ 元データ・設定データ		▲ 操作結果・取得データ	
操作パネル	品名 型番 単価 個数 出荷先 部品1 PRD101 100 2 A社 部品2 PRD102 120 2 A社 部品3 PRD103 140 4 A社 部品4 PRD104 160 4 A社 部品4 PRD105 180 2 A社 部品5 PRD102 120 5 B社 部品5 PRD101 100 1 B社 部品2 PRD102 120 5 B社 部品3 PRD103 140 5 B社 部品3 PRD104 160 4 B社 部品5 PRD104 160 4 B社 部品5 PRD105 180 3 B社 部品5 PRD101 100 2 C社 部品3 PR1 100 2 C社 部品3 PRD103 140 2 C社 部品4 PRD104 160 5 C社 部品4 PRD103 140 2 C社 2 B 2 D 2 D 部品5 PRD103 140 2 C社 3 3 3 3 3	設定用データ PRD999 設定用 データ(7)用) データ(7)用) 200 240 260 280 280 220 240 220 240 220 240 220 240 220 240 24	品名型番単価 個数 出荷先	取得したデータ 取得した リストデータ
707				



-テーブルデータ操作104-

設定手順

テーブル要素の繰り返し印刷機能を使用するためには、「4.1テーブルデータの印刷」の「設定手順」・「③ 描画設定」・「テーブル全体の描画設定」において以下のように設定します。

・テーブル全体の描画設定

テーブル要素上でマウス右クリックし、[テーブル描画属性設定...]を選択します。



表示された「テーブル描画設定」ダイアログで、「繰り返し印刷」をチェックし、表示行数を入力してくだ さい。このように設定された1つの帳票内のすべてのテーブル要素は同一のテーブルデータを参照すること になります。

テーブル描画設定								
テーブル設定			罫線設定		ヘッダ行設定			
文字フォント		変更	雪線色	変更	■ へッダ行を表	示する		
文字色		変更	外枠(Point)	1	- テーブル属性	利用		
下線	■表	示する	ヘッダ線(Point)	1	文字フォント	変更		
縦余白(Point)		5 🌩						
横余白(Point)		5 🌲	横線(Point)	0.5	文字色	変更		
行間隔(Point)		0 🔺	縦線(Point)	0.5	下線	 表示する 		
文字位置	左上	•			縦余白(Point)	5 🜩		
背景色		変更			横余白(Point)	5 🜩		
☑ 繰り返し印刷					行間隔(Point)	0		
表示行数		8 💂			文字位置	中央		
☑ テーフル高さ目	目動調告	Ĕ			背景色	変更		
プレビュー								
		列-A	列-B	列-C	列- D			
		データ-A0	データ-B0	データ-CO	データ-D0			
		データ-A1	データ-B1	データ・01	データ-D1			
		データ-A2	データ-B2	データ・02	データ-D2			
設定 キャンセル								



帳票の印刷は帳票コンポーネントのメソッドを実行することにより行います。

「「ボタン」	アクションイ	(ベント 印刷)	ブレビュー画面を表示する	1	■ 帳票
ID:175 KEY:"繰り返し印刷(テーブル)"					ID:176 KEY:"テーブル繰り返し印刷用"
■帳票					
ID:176 KEY:"テーブル繰り返し印刷用"					

①の接続情報:印刷を実行する。

∾₂	起動メソッド情報				×
		メソッド <mark>印刷プレビ</mark> =	ュー画面を表示する(Component)] 全メソッド対象
NC	型	言兑 8月	取得方法	コンポーネント	メソッド/値
	0 Component	親コンポーネント	固定値	-	
					了解 取消し
4.4 繰り返し印刷2(流し込み印刷): ラベル・バーコード・QRコード編

動作イメージ

以下の図のように、テーブルデータの指定された列のデータを順に帳票のラベル要素、バーコード要素、 または、QR コード要素に流し込み、最後の要素に収まりきらない場合そのページを繰り返し印刷すること が可能です。本節ではラベル要素、バーコード要素、または、QR コード要素の繰り返し印刷のための設定 について説明します。



-テーブルデータ操作107-

設定手順

ラベル要素、バーコード要素、または、QR コード要素の繰り返し印刷機能を使用するためには、帳票編 集画面で繰り返し印刷機能を使用することを指定した上で、データ取得先を設定する必要があります。

①描画属性設定

・ラベル要素の場合

帳票ラベル要素上でマウス右クリックし「ラベル描画属性設定...」を選択します。

								<u> </u>		_
					_					
	ラベル	描画層	弱性影	锭						
_	データ	設定			Þ		_		_	_
		-					_		_	+
	重ね順	į				\vdash	_		_	-
_					-				-	+
	帳票要	揉コt							-	+
	加重重	志比し	l (t H	ŀ			-		-	+
	110306-39	. 10.17	01110						-	+
	帳票要	索削除	余							+
	1 1 1	1 1		1 1	1					

表示された「ラベル描画設定」ダイアログで、「繰り返し印刷」をチェックします。このように設定された 1 つの帳票内のすべてのラベル要素は同一のテーブルデータ指定列のデータを参照することになります。

ラベル描画設定		×
文字フォント	変更	プレビュー
文字色	変更	亜あぁアァアァ Sample 123
下線	🔲 表示する	
縦余白(Point)	5 🛓	
横余白(Point)	5	
行間隔(Point)	0	
文字位置	左上 ▼	
背景色	変更	
罫線色	変更	
罫線太さ <mark>(Point</mark>)	0.5	
☑ 繰り返し印刷		
		設定 キャンセル

・バーコード要素の場合

帳票バーコード要素上でマウス右クリックし「バーコード描画属性設定...」を選択します。

<u> </u>	バーコード描画属性設定…			
\checkmark	原寸サイズ			
	データ設定	×		
	重ね順	×		
	帳票要素コピー			
	帳票要素貼り付け			
	帳票要素削除			

表示された「バーコード描画設定」ダイアログで、「繰り返し印刷」をチェックします。このように設定さ れた1 つの帳票内のすべてのバーコード要素は同一のテーブルデータ指定列のデータを参照することになり ます。

バーコード描画設定	×							
コード体系	CODE39 -							
データ表示	🔲 表示する							
チェックディジット	🔲 付加する							
表示サイズ	📝 原寸表示する							
罫線色	変更							
罫線太さ (Point)	0							
☑ 繰り返し印刷]							
プレビュー								
設定	キャンセル							

・QR コード要素の場合

帳票 QR コード要素上でマウス右クリックし「QR コード描画属性設定…」を選択します。



表示された「QRコード描画設定」ダイアログで、「繰り返し印刷」をチェックします。このように設定された1つの帳票内のすべてのQRコード要素は同一のテーブルデータ指定列のデータを参照することになります。

QRコード描画設定	×						
倍率	1						
バージョン	0						
エラー訂正レベル	L •						
表示サイズ	📝 原寸表示する						
罫線色	変更						
罫線太さ (Point)	0						
☑ 繰り返し印刷							
プレビュー							
設定	キャンセル						

②データ取得設定

ー連のラベル要素、バーコード要素、QR コード要素に設定するテーブル列データの取得情報を設定しま す。各要素上でマウス右クリックし[データ設定]-[データ取得設定...]を選択します。

			_	
	ラベル描画属性設定。	,		
	データ設定	►		データ取得設定…
-	重ね順	►	\checkmark	テキスト入力
	帳票要索コピー			ページ番号
	帳票要素貼り付け			
	帳票要素削除			

表示された「データ取得設定」ダイアログで、データ取得先コンポーネント、テーブルデータ取得メソッド、データ取得列番号(列インデックス)を指定します。

🌄 データ取得設定		×
取得元コンポーネント テーブル [ID:4	4] (KEY:"元データ")	変更
データ取得メソッド		
		🔲 全メソッド
テーブルデータを取得する()		•
データ取得列インデックス	2 🜩	
	設定 キャンセル	

接続例

帳票の印刷は帳票コンポーネントのメソッドを実行することにより行います。

「 ボタン	アクション	ノイベント	印刷ブレビュー画	画を表示する	1	─────────────────────────────────────
ID:177 KEY:"繰り返し印刷(バーコード)"						ID:178 KEY:"バーコード繰り返し印刷用"
一帳票						
ID:178 KEY:"バーコード繰り返し印刷用"						

①の接続情報:印刷を実行する。

₩2,	2動メソッド情報					X			
	メソッド 印刷プレビュー画面を表示する(Component) 🔹 刚 全メソッド対象								
NO	型	≣兑 ⁸ 月	取得方法	コンポーネント		メソッド/値			
(Component	親コンポーネント	固定値	-					
						了解 取消し			